

パレスチナ解放闘争史の年表 1892年～2024年

第1部



1879年



～1882年ウラービー革命(エジプト)Muḥammad ‘Abduh

1884年



Jamāl al-Dīn al-Afghān アラビア語新聞「不滅のつながり」発行(パリ)

1892年

1・23 ナータン・ビルンバウム Nathan Birnbaum 「Zionism」



1893年

1894年

1895年

1896年



2・14テオドール・ヘルツル Theodor Herzl 「Der Judenstaat」

8・31世界シオニスト会議 First Zionist Congress /World Zionist Congress

1897年



97年リトアニア・ポーランド・ロシア・ユダヤ人労働者総同盟(ブンド)結成(→1921年解散)

General Jewish Labour Bund in Lithuania, Poland and Russia

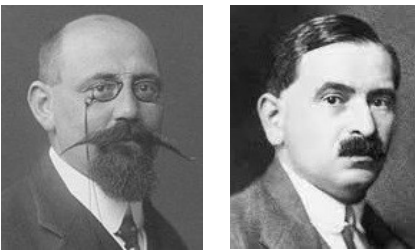
Victor Alter/ Henryk Ehrlich/ Esther Frumkin/ Arkadi Kremer

1898年

8・28Second Zionist Congress/ World Zionist Congress

98年ロシア社会民主労働党結成 Russian Social Democratic Labour Party

1899年



9・29オーストリア社会民主党ブリュン大会「ブリュン綱領」Brünner Programm Parteitag der SDAP in Brünn 1899

カール・レンナーKarl Renner/オットー・バウアーOtto Bauer

Third Zionist Congress/ World Zionist Congress

1900年

00年 Fourth Zionist Congress/ World Zionist Congress

1901年

01年リトアニア・ポーランド・ロシア・ユダヤ人労働者総同盟(ブンド)第4回大会

「ユダヤ人の民族的独自性の確立と諸民族の非領域的連邦国家」構想

01年アスワン・ハイダム完成(エジプト)

01年「ユダヤ国民基金」Jewish National Fund 創設. パレスチナの土地購買, ユダヤ人移民貸与

1902年

1903年

03年ロシア社会民主労働党第2回大会—ブンド、ボイコット

(レーニン「文化的多民族自治論」批判 National personal autonomy)

1904年

1905年

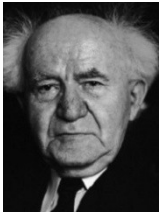


11・* ポアレイ・ツィオン(シオンの労働者) Poale Zion (Workers of Zion) /Ya'akov Zerubavel (ロシア)シオニズムと社会主義提唱

12・* イラン立憲革命 Persian Constitutional Revolution (~1911年)

05年ハポエル・ハツァール結成 Hapoel Hatzair (青年労働者/ユダヤ人移民第2波メンバー)

1906年



10・* Poale Zion (Workers of Zion) **パレスチナ支部** the Poale Zion (Workers of Zion) Party 結成。ベン・グリオン David Ben-Gurion(多数派)労働組合組織はユダヤ人労働者のみの組織化。/ロストラ派・ドン川下降河口都市 Rotoy-na-Dunu(少数派)、パレスチナの労働者の組織化

12・* イラン立憲革命—イラン憲法第1部制定

06年ユダヤ人社会民主労働党 Jewish Social Democratic Labour Party (Poalei Zion) (Russian Empire)

1907年

8・* first World Congress /A World Union of Poale Zion (Hague) / The World Socialist Union of Jewish Workers-Po'alei Zion

1908年

7・* オスマン帝国 Ottoman Empire「ミトハト憲法」復活



7・* 青年トルコ人革命 Young Turk Revolution/

アブデュルハミト 2世退位 Abdul Hamid II

10・* ブルガリア王国 (近代) Kingdom of Bulgaria、オスマン帝国から独立

1909年

4・* 「3・31 事件」31 March Incident(反革命クーデター/青年トルコ人革命鎮圧)
/オスマン・トルコ人口調査, この時期パレスチナ人口63万人.

4・12Hashomer/Jewish defense organization in Palestine/conquest of labor/Hebrew labor 設立

7・* イラン立憲革命—第二立憲制議会

09年 second congress/ A World Union of Poale Zion (Kraków)

09年デガニア共同村(キブツ Kibbutz) ガラリア湖南岸に建設

1910年

1911年

6・* ~12・* イタリア・トルコ戦争

1912年

10・* ~13年5・* 第1次バルカン戦争(バルカン同盟VSオスマン帝国)

バルカン同盟(ロシア/ギリシア/ブルガリア/セルビア/モンテネグロ)

1913年

6・* ~8・* 第2次バルカン戦争(バルカン同盟VSオスマン帝国)バルカン同盟勝利

1914年

14年~18年第1次世界大戦 World War I(中央同盟国/ドイツ/オーストリア/オスマン帝国/ブルガリア等VS 連合国/イギリス/フランス/ロシア/セルビア/アメリカ/イタリア/日本)

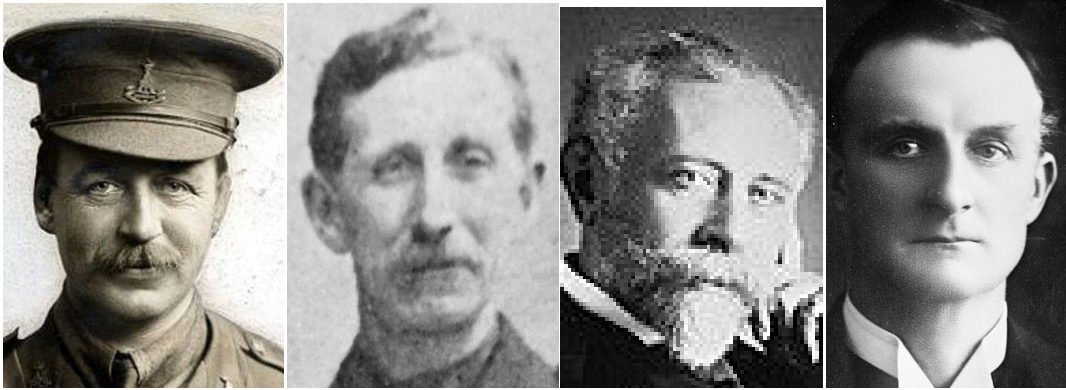
1915年



1・* ハーバード・サミュエル Herbert Samuel, 1st Viscount Samuel「パレスチナの将来」メモ
7・14~16年 3・30(10通)「マクマホン書簡」(英国)/Sir Arthur Henry McMahon

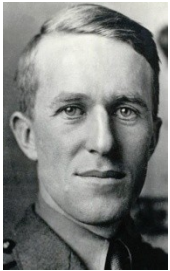
オスマン・トルコからのアラブ独立を約束。フサイン・イブン・アリー(メッカ・ハーシム家)「アラブ連合王国」のトルコからの独立を目指し、英高等弁務官ヘンリー・マクマホンに支援を要請。

1916年



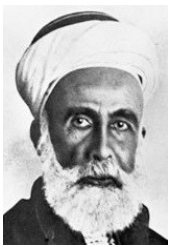
5. 9「サイクス・ピコ秘密条約」The Sykes-Picot Agreement (英・仏・露・伊)
/Mark Sykes/François Georges-Picot/Paul Cambon /Edward Grey, 1st Viscount Grey of Fallodon
オスマン・トルコ崩壊後の中東分割合意.

メソポタミアはイギリス, シリア沿岸はフランス, アナトリアの一部はロシア
パレスチナは国際管理とする. 英国は前年のアラブとの約束を翻す. 後にロシア革命によって暴露



6. * マクマホンとの秘密合意を受け, フセインはオスマン・トルコに反旗を翻す.
三男アミール・ファイサルの部隊は, 英国情報部員ローレンス T.E. Lawrenceらとともにメッカから北上. ヘジャス鉄道沿線でゲリラ攻撃を繰り返す.
16年~18年アラブ反乱 Arab Revolt/ Great Arab Revolt/

1917年



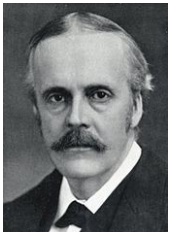
9. 30「ヒジャーズ王国(大アラブ王国)」Kingdom of Hejaz /Hussein bin Ali, Sharif of Mecca

フサイン・イブン・アリー (マッカのシャリーフ)がダマスカス入城.
オスマン・トルコの支配は崩壊. ダマスカスを首都. フサイン・イブン・アリーが国王となる.
ハーシム家の長男アリー・イブン・フサインは継承してヒジャーズ王となり,
次男アブダッラー1世はヨルダン王, 三男ファイサル1世はシリア・イラク王、

10. 17 ロシア革命. ポグロムを避けるユダヤ人がパレスチナに集団入植.

11. 2「バルフォア宣言」(バルフォア外相)Arthur James Balfour

シオニスト運動の要請を受けて, パレスチナにユダヤの「民族的郷土」を建国することに賛成する.
民族的郷土(National Home)とは, 主権を持った国家ではないものの, その道程にある政治的存在であるとする.



12. * イギリス軍(エドモンド・アレンビー将軍)がエルサレム占領.

17年イギリス軍, パレスチナとイラク南部占領. ファイサルの率いるアラブ反乱軍, アカバ占領.
ヨルダンからシリアへと進出.

1918年

- 9. 19メギッドの戦い エドモンド・アレンビー将軍の英エジプト遠征軍、トルコ第7軍を壊滅
- 10. 30ムドロス休戦協定(連合国・オスマン帝国) オスマン・トルコのアラブ諸国支配崩壊
- 11. 7英国軍在アラブ司令部声明
- 18年ロシア共産党(ボリシェヴィキ)ーロシア社会民主労働党改称

1919年



1. 2「ファイサル・ワイツマン協定」Faisal–Weizmann Agreement
Faisal I bin Al-Hussein bin Ali Al-Hashemi / Chaim Weizmann
(シリア王ファイサル・シオニスト代表ワイツマン会談/T・E・ローレンス仲介)
「パレスチナへのユダヤ人の大量移民を奨励する」合意.

1・18～パリ講和会議(ヴェルサイユ会議) Paris Peace Conference (1919–1920)

1・27 第1回パレスチナアラブ議会(エルサレム) Palestine Arab Congress



First congress: Jerusalem/Aref al-Dajani,

3・* エジプト「1919年革命」

3・* コミンテルン(共産主義インターナショナル)結成

5・* 第三次アフガン戦争



10. 15～17 社会主義労働者党(MPS)結成大会。Mifleget Poalim Sozialistim; (MPS)
/Socialist Workers Party (Mandatory Palestine)/ Poale Zion/ Hapoel Hatzair/事実上のパレスチナ共産党第1回大会イツハーク・メイルゾーン書記長 Yaakov Meiersohn

ポアレイ・ツィオン、シオニズムを明確にし、他党派と「労働の統一」を結成。これに応じない少数派は党を離脱しロシア革命支持とプロレタリア・シオニズムを掲げる。またアラブ人を排除せず。

1920年

3・6～7シオニスト鉄道労働組合第2回大会(ヤッファ)

3・8アラブ民族会議(ダマスカス)/シリア・アラブ王国(大シリア)創建 Arab Kingdom of Syria/
ファイサル1世(イラク王) Faisal I of Iraq

3・* Hitahdut (Hitahdut Olamit) / the World Union of Hapoel Hatzair/ Zeirei Zion



4・4～7 ナビー・ムーサ事件 1920 Nebi Musa riots

ナビー・ムーサ(預言者モーゼ)を讃える祭りでMPS活動家とアラブ人が衝突。

4・19～サンレモ会議 The San Remo conference(イタリア 第一次大戦連合国)
旧トルコ帝国領土の処分協議。

イラク、トランスヨルダン、パレスチナは英国の国連委任統治下におかれる。

シリアとレバノンにフランスの統治下に。シリアの仏領化にともない「大アラブ王国」滅亡。シリア王ファイサルは廃位

5・31 第2回パレスチナアラブ議会(ダマスカス)/パレスチナアラブ協会 Second congress/'

The Palestinian Arab Society'/Amin al-Husseini/Aref al-Aref/Izzat Darwaza

6・* イラン共産党結成/ハイダーカーンアモグリ



7・7ハーバード・サミュエル Herbert Louis Samuel, 1st Viscount Samuel、イギリス委任統治領パレスチナ初代高等弁務官就任(～1925年)

7・fifth world congress /A World Union of Poale Zion /Left Poale Zion (Poalei Zion Semol) 形成

7・* コミンテルン第2回大会

9・1コミンテルン東方諸民族大会(バクー) Congress of the Peoples of the East

10・* MPS 第2回大会。Jewish Socialist Workers Party — Poalei Zion

「プロレタリア・シオニズムはアラブ労働者・農民の利益と合致する」との立場から「労働者フラクツィア」形成—「ユダヤ人およびアラブ労働者センター」の設立と、ユダヤ人支部とアラブ人支部からなるパレスチナ統一革命社会主義党の設立を訴える。

10・29「トルコ共和国」Republic of Turkey ムスタファ・ケマル・アタテュルク Mustafa Kemal Atatürk



12・19第3回パレスチナアラブ議会(ハイファ)Third congress/Aref al-Dajani/Musa al-Husayni

ユダヤ人の民族郷土建設計画に反対し、イギリスに対しパレスチナ民族独立政府の樹立を求める。

5項目要求 ①パレスチナ在住のイスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒が直接選挙によって選出された議会に責任を持つ国民政府を形成する。②ユダヤ人の郷土原則の廃止。③国民政府を確立するまでユダヤ人の移入民を禁止する。④旧トルコ法により統治され、イギリス法による規制を受けない。⑤パレスチナと近隣アラブ諸国の一体性を確認する。このうち④項以外については今日の PLO に継承されている。

20年ヴァド・レウミ(民族評議会)創設(ユダヤ人入植者)ユダヤ人共同体の自治運営

ヒスタドルト(Histadrut ユダヤ労働総同盟)、ハガナ(Haganah ユダヤ防衛組織)創設

1921年

2.1ペルシャクーデター1921 Persian coup d'état/Reza Shah (Persian Cossack Brigade) /Zia ol Din Tabatabaee

3. 13 英国植民地担当者会議(カイロ・英国チャーチル植民地相等)。アラブ民族主義への対応を協議。



4・1「トランスヨルダン首長国」(イギリス保護領)設立 Emirate of TransJordan

イギリス、パレスチナを、ヨルダン川を境に二つに分割し、ヨルダン川東岸は、ハーシム家二男アブド・アッラーフ・ブン・フサイン。パレスチナ西部は引き続き、「英領パレスチナ」として直接統治し、アラブ人とユダヤ人の住み分けを図る。ジャボチンスキーに代表される極右派は、「修正派」を形成。ヨルダン川兩岸を含む「大イスラエル構想」提示

4・22~25MPS 第3回大会。Jewish Communist Party — Poalei Zion, section of the Palestine

Communist Party 統一革命党設立への過渡期組織(ユダヤ人支部)として、アラブ勤労者人民にブルジョア民族主義から独立した労農運動の形成を呼びかける。



5・1~7 メーデー事件(ヤーフアー)The Jaffa riots

MPSのデモがシオニストと衝突。アラブとの混住地区に避難デモ隊に対しアラブ住民が攻撃。この後パレスチナ社会主義労働者党(MPS)は非合法化

6・25第4回パレスチナアラブ議会(エルサレム)Fourth congress

6・*コミンテルン第3回大会

7・23~29中国共産党結成第1回大会(上海)

21年エジプト社会党結成 Egyptian Socialist Party/Hosni al-Arabi

1922年



1・9 イギリス統治/イスラム最高評議会第1回選挙/大統領 Amin al-Husseini

1・*パレスチナ共産党(PCP)結成 Palestine Communist Party (1922) (MPSは指導部155名が国外退去処分を受けたことから事実上解体。残存メンバーで結成)

4・3ソ連共産党書記長ヨシフ・スターリン Joseph Stalin

6・3イギリス・チャーチル首相「白書」発表

7. 24国際連盟理事会、サンレモ会議合意承認。バルフォア宣言の骨子承認

英国は国際連盟によりパレスチナ(エレット・イスラエル)の委任統治権付与

「この地に対するユダヤ人移民と開拓」の助成責任を課せられる。

8・22第5回パレスチナアラブ議会(ナブルス)Fifth congress

9・*パレスチナ委任統治開始(イギリス)。この年イギリスによる人口調査では、

パレスチナ人67万人, ベドウィン人7万人, ユダヤ人は6万人とされる。

9・* **MPS第4回大会**。Palestinian Communist Party (1922)/ Joseph Berger-Barzilai/Communist Party of Palestine プロレタリア・シオニズムを維持する**多数派(PCP)**に反対し、コミンテルンへの即時加入を主張する(Communist Party of Palestine **CPP**)が分裂

11・* **コミンテルン第4回大会**

11・* **オスマン帝国** スルタン制廃止(オスマン帝国滅亡)

12・* **エジプト共産党** Egyptian Communist Party(エジプト社会党改称)

1923年

6・16 第6回パレスチナアラブ議会(ヤッファ)Sixth congress

7・24ローザンヌ条約

7・* **MPS 第5回党大会**。シオニストと絶縁した PCP がCPPと和解。/

ジョセフ・バーガー・バルジライ書記長 Joseph Berger-Barzilai

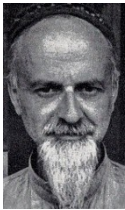
パレスチナ共産党(Palestine Communist Party **PCP**)として再統一しコミンテルン加盟を申請

9・29イギリス、パレスチナ委任統治、正式開始



10・29 **トルコ革命** Turkish War of Independence/Turkey/ムスタファ・ケマル・アタテュルク
Mustafa Kemal Atatürk 大統領就任

1924年



3・8 **パレスチナ共産党発足** (MPS 社会主義労働者党、コミンテルン加盟承認)

Joseph Berger-Barzilai/Wolf Averbach/Moishe Kuperman/Nahum Lestshinsky

加盟の条件として①アラブ人をふくむ地域政党への改革、②反帝・反シオニストのアラブ解放運動、の2点が突きつけられる。

4・* **ヒスドルート**(イスラエル労働総同盟)中央評議会—パレスチナ共産党労働者フラクション排除

6・17~コミンテルン第5回大会

7・* **パレスチナ共産党第6回党大会**。「アラブ化」スローガンを採択。

アラブ化: アラブとユダヤ人の民族的矛盾こそがイギリス帝国主義の基盤である。階級問題を中心にすえ、アラブ・ユダヤ勤労者の共通の利益を結集し、民族的矛盾の根源を除去することが必要である。

10・24 **レバノン人民党** Lebanese People Party/ (Lebanese Communist Party) /dany fouani/
Syrian-Lebanese Communist Party/ Youssef Ibrahim Yazbek/ dany fouani /Fou'ad al-Shmeli/
Michel Aflaq/Hanna Gharib/**Joseph Berger-Barzilai**

11・*「アッファラ村事件」発生。

シオニスト入植者とアラブ農民が衝突。共産党はアラブ農民の立場に立ちシオニスト入植阻止の闘いを組織。ユダヤ人労働者に土地収用に反対するよう訴える。

24年シリア共産党結成 Syrian Communist Party/ Khalid Bakdash

1925年

2・* **クルド人反乱**シェイフ・サイドの反乱(トルコ)Sheikh Said rebellion



10・22 **パレスチナ・アラブ労働者協会設立** Palestine Arab Workers Society (PAWS) /
Sami Taha

12・15 **レザー・パフラヴィー**/ Reza Shah Pahlavi (Reza Shah)

/パフラヴィー朝イラン初代皇帝Pahlavi dynasty

25年パレスチナのユダヤ人評議会選挙。共産党は2. 5%を獲得。

1926年

3・* **レバノン共和国設立**/シャルル・ダッバス/Charles Debbas

12・* 第1回パレスチナ会議(労働組合「統一運動」)

1927年

5・20 ナジユド及びヒジャーズ王国設立 Kingdom of Hejaz and Nejd/1932年サウジアラビア王国
アブドゥルアズィーズ・イブン・サウード Abdulaziz 'Ibn Saud'



11・* ムスリム青年協会(エジプト)結成 Young Men's Muslim Association(YMMA)
zz ad-Din Qassam

1928年

6・20 第7回パレスチナアラブ議会(エルサレム) Seventh congress

7. 17~コミンテルン第6回大会 ~社会ファシズム批判

28年パレスチナ住民の急進化が進む。北部の山間部では武装集団「緑の手」が結成される。



28年ムスリム同胞団結成(エジプト) Muslim Brotherhood/
Hassan al-Banna/Sayyid Qutb

1929年

3・4 アメリカ/ハーバート・フーヴァー大統領(共和党) Herbert Clark Hoover

3・* パレスチナ共産党機関紙非公然機関紙「Ila al-Amam (“forward”).」発行

7・20~ 第16回 World Congress / World Zionist Congress

「ユダヤ機関」創設(ユダヤ人社会の最高執行機関) Jewish Agency

8・15「嘆きの壁」事件(エルサレム) 1929 Arab riots in Palestine/Buraq Uprising



嘆きの壁をめぐるユダヤ人・アラブ人両派の動員合戦開始

ジョセフ・バーガーは武力紛争を「内戦」と表現し、植民地主義の結果であると述べた。彼は、アラブとユダヤ人の労働者の団結を恐れているイギリスは、コミュニティを分割するために人種差別主義者の憎悪を煽り、アラブのエフェンディとシオニストの指導者を利用していただけと述べた。

8. 23 アラブ人民族主義者による、ユダヤ人への攻撃開始—内戦化

ユダヤ人 133 人とアラブ人 116 人が殺害された

8. 29 エジプト駐留英軍の出動により、暴動が終焉に向かう。ユダヤ人 133 人死亡。

アラブ人も英軍の弾圧により 116 人死亡

10. 16 コミンテルン執行委員会決議「アラビスタンの蜂起運動についての決議」

「嘆きの壁事件」を、イギリスとシオニストに対するアラブ反帝国主義蜂起としての闘争の始まりと評価。運動は最初の段階においてはナショナリストと宗教的スローガンおよび彼らへの従属のもとにあったが、反帝・民族解放運動としての側面を強めつつあり、「レーニ的な意味でのブルジョア民主主義革命」とであると規定する。革命的アラブ労働者のために、党に無条件の支援を要求した。そしてパレスチナ共産党の「アラブ化」を指示する。

1930年

1・11 第1回アラブ労働者会議(パレスチナ・アラブ労働者協会)

ムハンマド・アリー・クライラト Muhammad 'Ali Qulaylat/ラドワーン・アル・ヒルー Ridwan al Hilw



12・* パレスチナ共産党第7回大会/ ムハンマド・ナジャティシドキ書記長
Muhammad Najati Sidqi

嘆きの壁事件を機に、「左翼孤立主義」路線のもとに「アラブ化」の本格的な推進を開始。中央委員の多数をアラブ人に与える。当面ハムディ・フサインなどアラブ急進派との連携を目指す

30年 エレット・イスラエル労働者党(マパイ) Eretz Yisrael, "Workers' Party of the Land of Israel (Mapai)
— 結成 共産党に代わりユダヤ人社会における労働運動の主導権を握る。

30年 Black Hand (Mandatory Palestine) 結成(シャイク・アル・カッサム) Izz ad-Din al-Qassam
イギリスの地区弁務官を暗殺するなどのテロ活動を展開。イギリス当局は多くのパレスチナ人指導者を逮捕。

1931年

2・1 イギリス当局、パレスチナ共産党弾圧開始。書記局員2名(マフムード・アトラッシュ/ナジャーティー・スイドキー—Najati Sidqi al Alaymini))逮捕。その後の1年間に44名(内ユダヤ人17名)を国外追放。

12・7 イスラム総会(パレスチナアラブ議会改組 エルサレム) General Islamic Congress



31年 武装組織「The National Military Organization in the Land of Israel」The Irgun 結成
Ze'ev Jabotinsky/ Avraham Tehomi/ Menachem Begin ジャボティンスキーを奉じ、「神との契約の地であるエレット・イスラエル全土にユダヤ国家を樹立すると主張。

1932年

4・* パレスチナ共産党、

武装闘争の状況が熟したとして蜂起の呼びかけ。メーデーを前にパレスチナ共産党員の一斉検挙。80名が逮捕される。この年の検挙数は200名に達し、そのほとんどが国外追放となる。

ユダヤ人評議会選挙での得票率も1%に低下



8・13 パレスチナ独立党—結成 Independence Party (Mandatory Palestine)/ Izzat Darwaza/Awni Abd al-Hadi

9・23 サウジアラビア建国(ワッハビズム)/イブン=サウード

10・3 イラク王国 Kingdom of Iraq 設立/ファイサル1世・Faisal I of Iraq
国際連盟加盟

11・* パレスチナ共産党ナジャーティー・スイドキー・アライミーニー(Najati Sidqi al Alaymini)・パレスチナ独立党 Awni Abd al-Hadi 交渉

32年 イフード・オラミ結成 Ihud Olami/ World Zionist Labour Party Hitahdut / Zeirei Zion

32年 Kingdom of Saudi Arabia 成立/アブドウルアズィーズ・イブン・サウード/Abdulaziz 'Ibn Saud'

1933年

1・30 ヒトラー、ドイツ首相就任ナチス政権/ Nazi Germany/ German Reich/ Greater German Reich
パレスチナへのドイツ系ユダヤ人移民が急増

3・4 アメリカ/フランクリン・ルーズベルト大統領(民主党) Franklin Delano Roosevelt

10・* アラブ蜂起 アラブ人の大デモ。英官憲と衝突。民族主義の高揚。

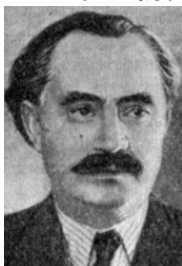
11・3 パレスチナ共産党、

蜂起は反帝国主義の確固たる方向を示したと評価。実際には蜂起戦術で壊滅的打撃を受ける。委任統治廃止、バルフォア宣言の廃棄、シオニスト移民の停止などをスローガンに掲げる。

1934年

3・31 イラク共産党結成 Partido Comunista Iraquí/Rayat ash-Shaghilah/Hamid Majid Mousa

12・* 国民防衛党結成/パレスチナ・アラブ党結成



34年 パレスチナ共産党/ラドワン・アル・ヒル(ムーサ) 書記長 Ridwan al Hilw (Musa)
機関紙「人民の闘争」Nidal al-Sha'b

逮捕されたペルマンに代わり 組織再建に着手。革命の性格を反帝・反シオニスト・反アラブ封建主義と規定。それまでの指導者の多くはソ連に召還され大粛清の犠牲となる。

1935年

3・21ペルシアから「イラン」に国名改称 Iran

7・25～コミンテルン第7回大会/人民戦線戦術 PCC ムーサ書記長スピーチ

The Speech by Ridwan al Hilw (Yusuf)反帝・反シオニズムに絞ったアラブ民族主義者との統一戦線。

ユダヤ人の位置づけ: ユダヤ人居留地社会はシオニズムが完全に支配する均質的社会であり、そこでの大衆的闘争の余地はないとする。したがってユダヤ人活動家の獲得は、居留地からの切り離しの後初めて可能になるとする。

11・20 イズアド・ディン・アル・カッサム Izz ad-Din al-Qassam 戦死

12・* パレスチナ共産党人民集会(マフムード・ニムル・オーデ Mahmud Nimr Awda 演説)

1936年

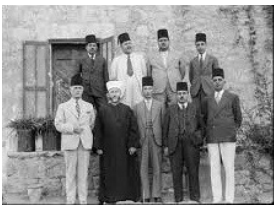


4・* **パレスチナ独立戦争「アラブ大反乱」**1936-1939 Arab revolt in Palestine/The Great Revolt パレスチナでシオニズムの動きに抗議する住民の反乱。ユダヤ人の移民停止を要求して暴動が激化。

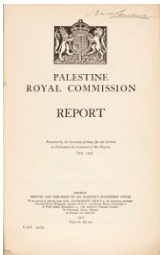
4・25 **アラブ高等委員会設立** Arab Higher Committee (AHC) /Amin al-Husseini **アラブ全国委員会** Arab National Committee **結成**/アミル・アル・フセイニは、エルサレムのムフティ(イスラム教最高指導者)を代々つとめるフセイニ家の当主。

10・29 **イラク・クーデター**/バクル・シドキ Bakr Sidqi

36年 **パレスチナ社会主義連盟一創立**



1937年



7・7 **ピール委員会** The Peel Commission (イギリス) 「ピール報告書」 Report of the Palestine Royal Commission パレスチナのアラブとユダヤ国家への分割を勧告。

ユダヤ人入植の制限に乗り出す。欧州各国からの流入で、一気にユダヤ人人口が40万人に増加。

ここまでにパレスチナの土地の5.7%が、合法的取引によりユダヤ人の手に渡る。

7・25 **アラブ高等委員会、ピール案拒否声明**

7・* **サーダバード条約(不可侵友好条約)締結**(イラン、トルコ、アフガニスタン、イラク)

8・17 **第20回世界シオニスト会議** World Zionist Congress

10・1 **アラブ高等委員会非合法化/アミル・アル・フセイニ議長解任**

37年 **パレスチナ共産党中央委員会、ユダヤ人居留区における活動強化のため、エルサレム、ハイファ、テルアビブの代表による「ユダヤ人指導部」を形成。**

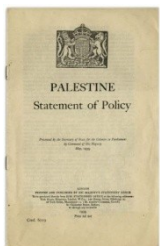
1938年

6・* **パレスチナ共産党シムハー・ツブリー(Simha Zabri)逮捕**

10・5 **パレスチナ全土でゲリラと英軍激戦**

11・9 **ウッドヘッド委員会報告**

1939年



5・17 **イギリス政府(ネビル・チェンバレン)「1939年白書」**White Paper of 1939/ (1936-1939 Arab revolt in Palestine/The Great Revolt) 発表

5・31 **アラブ高等委員会(ベイルート)「39年白書」拒否決定**

8・16～25 **第21回シオニスト会議**

9. **1ドイツ軍、ポーランド侵略**Invasion of Poland/**第2次世界大戦開始**World War II

(枢軸国＝ドイツ/日本/イタリア V S 連合国＝イギリス/ソ連/オランダ/フランス/アメリカ/中華民国) 英軍内にユダヤ旅団編成、のちのイスラエル軍の中核となる。

12・* **パレスチナ共産党中央委員会、「ユダヤ人指導部」の解散を決定。ユダヤ人社会での活動に対する評価の違いが拡大する。「ユダヤ人指導部」は機関紙「ハ・エメト」(真実)を発行し独自活動を進める。**

1940年



8・* パレスチナ共産党第8回大会(コル・ハ・アム機関紙「人民の声」Kol ha Am 派とハ・エメト機関紙「真実」ha Ement 派分裂)



11・29 アラブ・バース結成/Zaki al-Arsuzi

12・* バース党/アラブ社会主義復興党 Ba'ath Party (Arab Socialist Ba'ath Party ミシェル・アフレク/サラーフ・ビタール Michel Aflaq/Salah al-Din al-Bitar/Akram al-Hawrani) 結成。

バースは“再生”の意味。共産主義を捨てアラブ民族主義を打ち出す。



40年ジョセフ・ワイツ Josef Weitz(シオニストの指導者)「アラブ人のすべてを、この土地から隣接諸国に移住させる以外に方法はない。アラブ人の一村落、一部族たちとも残してはならない」と主張。

40年秘密結社「レヒ」(シュテルン・ギャング)結成(イハク・シャミルら、イルゲン内最強硬派)

1941年

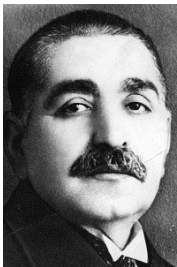
4・1 イラク軍事クーデター/カイラーニー政権 1941 Iraqi coup d'état/ Rashid Ali al-Gaylani

5・31 英軍、イラク・カイラーニー政権打倒

6・21 英軍、自由フランス軍、シリア上陸、ダマスカス占領

ドゴール派の民政官カトルー将軍はシリアとレバノンの「独立」を承認するが、旧フランスの統治機構はそのまま残される

6・* ヴィシー政府の下で、シリアとレバノンにフランス軍が引き続き進駐。司令官ダンツ将軍はドイツ空軍の駐留を承認。



10・2 イラン・トウーデ党結成 Tudeh Party of Iran /communist party of Iran /ソレイマン・エスカンダリ Soleiman Eskandari

41年パレスチナ共産党合法化

1942年



5. 9~11 ビルトモア会議(ニューヨーク/ビルトモア・ホテル) Biltmore Conference
全米のシオニスト組織代表、イスラエル労働総同盟のダビッド・ベングリオン、国家の創設を要求する「ビルトモア綱領」を発表。移民を制限するイギリスへの反感が強まる。

6・* パレスチナ共産党内の両派が和解。

ハ・エトメ「真実」派が中央委員会に復帰する。

42年 Federation of Arab Trade Unions and Labor Societies/ Bulus Farah

1943年

2・23 パレスチナ共産党機関紙機関紙「人民の闘争」A Palestinian Communist Party newspaper, Nidal al-Sha'b (The People's Struggle)「赤軍結成25周年記念」

4・19~5・16 ワルシャワ・ゲットー蜂起

5・* イギリス空軍基地/ユダヤ人労働者ストライキ決行。スト参加の是非をめぐり共産党内で分裂。

5. 15 コミンテルン解散。//パレスチナ共産党の最終的分裂。



8・29～9・2全米ユダヤ会議

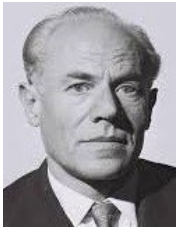
10・*パレスチナ民族解放同盟設立。National Liberation League in Palestine/ the *al-Ittihad* newspaper

Haidar Abdel-Shafi/ Emile Habibi /Mukhlis Amer/ / Mufid Nashashibi / Emile Toma

11. 11レバノン民族主義政権成立。Bechara El Khoury/presidents of Lebanon ドゴールは新閣僚全員の逮捕を命じる。

11. 23英国, レバノン弾圧に高まるアラブの抗議を前に, ドゴールに最後通牒。

逮捕者全員を釈放。



11・*パレスチナ共産党

ラドワーン・アル・ヒルー(ムーサー)が党書記長辞任。シュムエル・ミクニ Shmuel Mikunis/モーシェ・スネー Moshe Sneh ユダヤ人指導部がパレスチナ共産党の名称を引き継ぐ。

1944年

8・1ポーランド・ワルシャワ蜂起 Warsaw Ghetto Uprising/Jewish Combat Organization

10・7アラブ諸国会議「アレキサンドリア議定書」The Alexandria Protocol

44年シオニスト組織(パレスチナ在住), 移民制限に抗議してイギリスへのゲリラ攻撃を開始。

メヘナム・ベギンの首には二千ポンドの賞金がかかる。

1945年



3・22アラブ連盟発足 League of Arab States/ The Alexandria Protocol/エジプト・トランスヨルダン・イラク・レバノン・サウジアラビア・シリア・イエメン

4・12 アメリカ/ハリー・S・トルーマン大統領(民主党) Harry S. Truman

5. 1フランス軍部隊がベイルートに上陸、レバノン・シリアの再植民地化を狙う。

駐留中の「特別連隊」とともに民族政権打倒を目指す。

5. 19ダマスカス, ベイルート, トリポリ, アレッポ市民のゼネストと抗議デモ。

フランス軍、群集に発砲, 市街戦となる。

5. 29フランス軍, ホームス, ハマ, ダマスカスの町を空爆。市民多数犠牲

7・* イギリス・アトリー労働党政権

8・31ユダヤ抵抗運動設立(ハガナ Haganah /エツェル Irgun /リーハイ Lehi (militant group))

Jewish Resistance Movement(JRM)

10・24国際連合設立 First session of the United Nations General Assembly

10・31～11・1JRM -全土一斉蜂起

12. 30フランス軍戦闘部隊ベイルート上陸。アレッポ, ダマスカス, ベイルートの市民はゼネストで応える。

1946年

1・*カイロ紡績労働者ストライキ, アレキサンドリアにも波及。エジプト共産党は短期間に5千党員を獲得。

1・16マハバード共和国(クルディスタン共和国・パフラヴィー朝イラン領内)～12・15 崩壊/

Democratic Party of Iranian Kurdistan /Qazi Muhammad



4. 17シリア共和国独立 Syrian Republic (フランス軍, シリア・レバノンから撤退)。

初代大統領シュクリ・アル クワトリ Shukrī al Quwwatli

5. 25 トランスヨルダン王国, イギリスより独立。大シリア帝国の復活を目指しイラクと軍事同盟結成

7・* シリアバアス党、機関紙「アル・バアス」を発刊。アラブは単一の民族であり、単一の国家を構成すべきだとする。階級性、非宗教性は明確にせず。アラブ精神の発揚と植民地主義への対抗を

最優先課題とする。

46年シリア・アラブ共和国

46年ハシヨメルハツアイル労働者党—創立(社会主義連盟の改組)

1947年



4・4～6バアス党第1回大会(ダマスカス)開催アラブ社会主義バアス党シリア地域指導部 Arab Socialist The BASP's Constitution/Ba'ath Party – Syria Region.

シリアのほかヨルダン、イラク、レバノンから200人代議員参加。

バアス党を民族政党、社会主義政党、大衆的・革命的政党と規定。

4・28国連パレスチナ臨時委員会設置(イギリス、委任統治問題を国際連合に委任)。パレスチナ人130万、ユダヤ人は流出入ともに激しかったが、約60万人と推定される。

5・13国連パレスチナ特別委員会任命 United Nations Special Committee on

Palestine(UNSCOP)

5・14グロムイコ・ソ連外相/国連演説/

「基本的にはもちろん単一の民主連邦国家が望ましい。しかし、今はもう不可能だから、次善の策として2つに分離し、それぞれを独立させるべきだ。それはやむえないのだ」

パレスチナをユダヤ人国家とアラブ人国家に分割することを容認する立場表明

10・5コミンフォルム結成 Cominform/Information Bureau of the Communist and Workers' Parties,



11. 29 国連総会/181号決議(パレスチナ分割決議)

米国の圧力の下に、パレスチナ分割勧告案可決。賛成33、反対13、棄権10 イギリスは棄権に回る。決議の結果、人口で3分の1、所有地で6%を持つに過ぎなかったユダヤ人が、パレスチナの56.5%の土地を獲得。エルサレムは国際管理下に置かれる。

12. 5アラブ連盟、国連決議に反発。「アラブ解放軍」を組織して戦争準備に入る。アメリカはアラブ諸国への武器輸出を禁止。

1948年第1次中東戦争 (The 1948 Palestine war /

1947–1948 civil war in Mandatory Palestine/ The 1948 Arab–Israeli War)



1・*マパム党結成(ハシヨメル・ハツアイル労働者党+社会主義同盟+アブドゥット・ハアヴォダ・ポアレ・シオン運動)

イツハク・タベンキン Yitzhak Tabenkin/ヤコフ・ゼルバベル Ya'akov Zerubavel /Moshe Sneh

2. 9アラブ連盟加盟国会議(カイロ)イスラエル国家樹立絶対阻止決議/

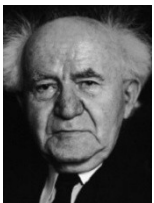
米・ソ両国はイスラエル国家樹立支持。

3. 14パレスチナにおけるイギリス委任統治終了、英軍がパレスチナから撤退。ユダヤ国民評議会が発足。

3. 14イスラエル民兵団「ハガナ」とアラブ義勇兵の戦闘激化。

4. 19イスラエル・イルガン・ツヴァイ・レウミ団(ペギン)、デール・ヤシン村襲撃。

パレスチナ住民250人全員虐殺。生き残った村民は、エルサレムまで行進させられ、さらしものにされる。その後恐怖にとりつかれたパレスチナ人の大量脱出開始



5. 14 「イスラエル」建国宣言(テルアビブ) デビッド・ベングリオン暫定首相(マパイ)選出

5. 15第1次中東戦争 エジプト、ヨルダン、シリア、レバノン、イラクのアラブ連盟5カ国連合軍が、パレスチナ奪還をめざし宣戦布告「ナクバ」

5. 19アラブ軍団(ヨルダン側から進攻)が、エルサレムを包囲。テル・アビブからの補給が不可能となる。エジプトから進攻部隊はテル・アビブへ迫る。

5. 28 降伏(エルサレム)。

5. 31イスラエル国防軍設立

6. 11国連仲介、約4週間休戦(～7月8日)。イスラエルはチェコからの武器輸入と、世界各国からの義勇兵募集で兵力を増強。

7. 09戦争再開。イスラエル軍は、新たに編成した機甲部隊がエジプト軍を先制攻撃。

一気に国境線を超えて進撃。

- 7. 18再休戦. イスラエル軍はイギリスの圧力を受け国境線まで撤退. 60万人移民計画、兵備を整える.
- 8・15大韓民国樹立 Republic of Korea (ROK)/ South Korea
- 9. 17国連パレスチナ調停官ベルナドッテ伯がエルサレムで暗殺される.
- 9・* 全パレスチナ政府設立
- 10. 16シナイ半島のネゲブ砂漠で戦闘再開. 次第にイスラエル軍が有利となる.
さらに北部に戦線を開きガリラヤ地方に進出.
- 12. 11国連総会, パレスチナ難民の故郷帰還権を承認と帰還を希望しない者には補償を行うする
決議194Ⅱ号. イスラエル側は決議受託拒否
- 12. 13 トランスヨルダン王国(アブドゥッラー1世),
ゴルダ・メイヤとの密約によりウエストバンクを占領し自国に併合.
- 48年ヨルダン共産党結成 Jordanian Communist Party/ Munir Hamarana

1949年

1・5レバノン進歩社会主義党 Progressive Socialist Party (PSF) 結成



1・25 イスラエル第1回クネセト(国会)選挙/イスラエル共産党(マキ)Tawfik Toubi

2. 23 ロードス休戦協定(エジプト王国・イスラエル)

米英の支援を受け, 最新の武器を入手したイスラエルが, 国連による分割線を越えて領土を拡大. 旧パレスチナ地域のほとんどを占領. パレスチナ人75万以上が追放され、難民化する。

3・31シリア・クーデター/フスニー・アル＝ザイーム Husni al-Za'im 大佐大統領就任
/イスラエルとの徹底抗戦主張.

3・23レバノン・イスラエル休戦協定

4・3トランスヨルダン王国・イスラエル休戦協定.

4・4北大西洋条約機構 North Atlantic Treaty Organization (NATO)

5. 11イスラエル, 国連加盟.

6. 1ヨルダン・ハシミテ王国(トランスヨルダン王国名改称). ヨルダン川西岸地区とエルサレム旧市街(東エルサレム)を領土に入れる.

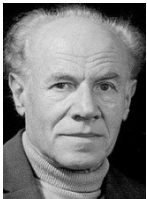
7. 20 シリア・イスラエル休戦協定. 第一次中東戦争終了.

惨敗したアラブ諸国は, 近代化の遅れが痛切 となり, 改革運動に拍車がかかる. シオニズムへの対抗概念として汎アラブ主義が台頭. エジプトでは軍内に秘密結社「自由将校団」結成

8・14シリア/ハーシム・アル＝アターシー Hashim al-Atassi 挙国一致政権成立

9・9朝鮮民主主義人民共和国樹立 Democratic People's Republic of Korea (DPRK)/ North Korea

10・1中国革命/中華人民共和国 People's Republic of China



49年イスラエル共産党(MAKI) The Israeli Communist Party (Maki) —パレスチナ共産党改称. シュムエル・ミクニス(Shmuel Mikunis) 書記長 アラブ人活動家も党に留まる。

1950年

1・5アラブ社会党(アラブ社会主義運動・シリア)アクラム・アル＝ホーラーニー Arab Socialist Movement

3・14イスラエル, 「不在者財産没収法」制定. 戦争中に一度でも自分の居住地を離れたものの家屋や財産が没収される. イスラエル占領地内の370カ村のうち300カ村, 3500平方キロが没収法の適用を受ける.

5. 25三国共同宣言(米英仏)発表. 中東の現状維持と紛争国への武器供与制限で合意.

6・25朝鮮戦争 Korean War—1953年7月27日休戦

1951年



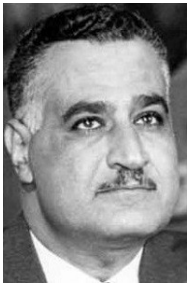
4・7 イラクバース党(アラブ社会主義バース党イラク地域指導部)結成 Arab Socialist Ba'ath Party – Iraq Region/Fuad al-Rikabi

5・2イラン・モハンマド・モサッデク首相、石油国有化宣言

7. 21ヨルダン・アブドゥッラー王, パレスチナ人により暗殺. 長男タラールが王位につく.

12・* シリア・クーデター・アディーブ・アル＝シーシャクリー軍事政権

1952年

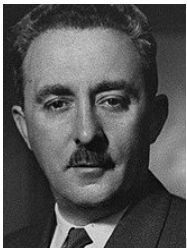


- 7. 23 (1952年エジプト革命) Gamal Nasserら自由将校団クーデター。ファルーク国王退位
- 8・11 (~1999年2・7) ヨルダン国王フセイン・ビン・タラール Hussein Bin Tala
- 10・22イラン、英国と国交断絶
- 52年アラブ民族運動(Arab Nationalist Movement、ANM George Habash) 結成

1953年

- 1・20アメリカ/ドワイト・D・アイゼンハワー大統領(共和党) Dwight David Eisenhower
- 3・15スターリン(ソ連共産党書記長)死去/Joseph Stalin
- 6. 18エジプト共和国/ムハンマド・ナギーブ大統領 Mohamed Naguib
- 8・20イラン・モサデグ政権崩壊(CIA)/ファズロラ・ザヘディ首相 Fazlollah Zahedi /モハンマド・レザー・パフラヴィー国王 Mohammad Reza Pahlavi
- 9・7ソ連共産党書記長ニキータ・フルシチョフ Nikita Khrushchev
- 9. 15 イスラエル最高裁、緊急防衛法により没収されたカフル・バルアム村について、住民の帰村要請を認める判決。翌日イスラエル軍はカフル・バルアム村を爆撃し完全破壊。
- 53年シャロンの率いるイスラエル軍部隊、ユダヤ人殺害に対する報復としてヨルダン領内のキビア村を襲撃。無抵抗の住民50人殺害。
- 53年アラブ社会主義復興党(バアス党)/ (アラブ・バアス党・アラブ社会党統合)
- 53年ヨルダンのタラール王、病気のため退位。息子のフセインが王位につく。
- 53年エジプト、アカバ湾に通じるチラン海峡 Straits of Tiran 封鎖。

1954年



- 1・26イスラエル/モシュ・シャレット Moshe(h) Sharett 首相(マパイ・第5次)
- 10・10 アルジェリア民族解放戦 Front de Libération Nationale (Algeria FLN)結成
- 10・19エジプト・イギリス「スエズ運河地帯からの英軍全面撤兵協定」調印
- 11. 14ナセル、エジプト革命指導評議会議長就任
- 10・19 「スエズ運河地帯からの英軍撤兵協定」調印(エジプト・イギリス)



- 10・26 ムスリム同胞団、ナセル大統領暗殺未遂事件 On October 26, 1954 a Muslim Brotherhood member tried to assassinate Egyptian President Gamal Abdul Nasser in Alexandria but failed /サイド・クトゥブ Sayyid Qutb 逮捕
- 54年アメリカ・シオニスト公共問題評議会創設(ワシントンにおけるユダヤ・ロビー)

1955年

- 2・* イスラエル軍、ガザを襲撃。エジプト軍守備隊40人殺害。
- 4・18~24アジア・アフリカ会議(バンドン会議) Asian-African Conference/Bandung Conference
- 5・14ワルシャワ条約機構 Warsaw Treaty Organization (WTO)
- 6・29イスラエル/モシュ・シャレット首相(マパイ)(第6次)
- 9・* エジプト、綿花とのバーター貿易により、チェコスロヴァキアから大量の武器購入に成功。実体としてはソ連がチェコを介してエジプトへ軍事支援を開始
- 11・3イスラエル/ダジッド・ベン・グリオン David Ben-Gurion 首相(マパイ・第7次)
- 11. 22バグダッド条約機構(Middle East Treaty Organization ・METO)発足
—1959年中東条約機構(CENTO)へ改組

反共・反ソ連軍事同盟/イギリス, トルコ, イラン, イラク, パキスタン加盟国, アメリカ・オブザーバー
12・*ヨルダンでバグダッド条約機構加入に反対する民族主義者デモ.

1956年スエズ動乱(第2次中東戦争) The Suez Crisis (second Middle East war)

1・1 ナセル『革命の哲学』Gamal Abdul Nasser's Philosophy of Revolution



2・14~25ソ連共産党第20回大会/Nikita Khrushchev
/スターリン批判/On the Cult of Personality and Its Consequences

3. 1ヨルダン王は, バグダッド条約加入推進派の「アラブ軍団」司令官グラブ
将軍(グラブ・パシャ)解任.

6. 13イギリス軍. エジプトからの撤退完了.

6・25ナセル・第2代エジプト大統領就任



7. 26ナセル, スエズ運河国有化宣言.

8. 3イギリス, スエズ運河地帯の占領を目的とした対エジプト作戦計画策定.
フランス・イスラエルもこれに加わる.

8. 16ロンドンでスエズ国際会議開催. 国際管理案可決.

8. 16モロッコからペルシャ湾にいたるアラブ世界の労働者が, 英仏の干渉に
抗議して統一ゼネスト.

9. 9ナセル, ロンドン会議の国際管理案拒否.

10. 22イギリス・フランス・イスラエルによる連合作戦計画完成.

10・23ハンガリア革命 Hungarian Revolution of 1956

10. 29イスラエル軍, カフム・カシム村で「外出禁止令に違反した」としてパレスチナ住民47人を虐殺
第二次中東戦争を引き起こすための挑発行動と見られる. のちに事件が発覚するが,
「単なる技術上の過失」とされ処罰されず.

10. 29 第2次中東戦争開始 イスラエル軍, エジプトの設定したチラン海峡封鎖線突破, シナイ半島進撃.

10. 31英仏両軍, イスラエル軍を支援しエジプト空軍基地爆撃.

ナセルは, 英仏軍のスエズ運河上陸を恐れ, シナイ防衛部隊に運河正面への撤退命令.

11. 2国連緊急総会, 停戦決議を採択. 米国は英国の国連憲章違反を非難. 軍の撤退を要求.
ソ連は原爆の使用をほのめかす.

11. 5イギリス軍空挺部隊, 「スエズ運河防衛のため」ポートサイドに降下.

翌日陸軍部隊がポートサイド上陸. イスラエル軍は電撃作戦によりガザとシナイ半島を占領.

11. 6 第二次中東戦争終了

エジプト, 英仏両国, 停戦決議受諾. エジプトは戦争には負けるが, スエズ運河国有化に成功.

11. 21国連警察軍が進駐開始.

11. 27米国政府, 「NATOは米国防衛の基本的要素であり, 伝統的な盟邦とのあいだの対立は,
一時的なものに過ぎない」と声明. 英仏への原油供給を開始, 関係の修復に乗り出す.

ピノー外相は「我々はもうNATOを投げ捨てる力はない」と告白.

11・* 三国軍事同盟(エジプト・シリア・ヨルダン)締結. ソ連の軍事援助が強化される.

12. 22英仏軍の撤退完了.

56年イラク民族統一戦線 National Union Front (UNF Iraq)//バアス党, イラク共産党, 独立党, 国家民主党

1957年



1・1 パレスチナ民族解放運動(ファタハ) 結成ヤーセル・アラファット Yasser Arafat
Palestinian National Liberation Movement (Fatah)

ファタハ(Fatah)という名称は, 「パレスチナ民族運動」というアラビア語の頭文字を逆に読ん
だものであると同時に, 単語としては「征服」「勝利」「ものごとの始まり」を意味し, 更にコーラ
ンの最初の詩の名前でもあった. 指導者のヤーセル・アラファット(別名アブ・アンマール)は, エ
ルサレムの名門フセイン家の出身. カイロ大学で工学を学びつつ, パレスチナ学生連合議長
として活躍. 1956年にスエズ危機が起こるとエジプト軍に入り, 工兵大尉として従軍. 卒業後

はクウェートで技師として働いていた. 他のメンバーも, 多くが50年代末にエジプトに留学していたパレスチナ
学生の出身.

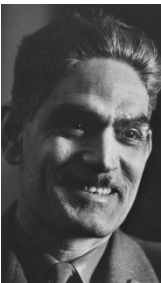
1. 5アイゼンハワー・ドクトリン Eisenhower Doctrine。アイゼンハワー・米国大統領，議会に対し中東特別教書を提出。国際共産主義の危険阻止のため，軍隊出動の権限，経済援助を要請
1. 9イギリスのイーデン首相，スエズ運河作戦失敗の責任をとり辞職。
1. 22イスラエル，シナイ半島から撤退。3月にはガザからも撤退。
4. 8スエズ運河再開
- 7・*ブリオニ(ブリュニ)会談(ユーゴ・チトー/エジプト・ナセル/インド・ネルー) Brioni Declaration



12・31～1・1アジア・アフリカ諸国人民連帯機構(アジア・アフリカ人民連帯機構) (the Afro-Asian Peoples' Solidarity Organization (AAPSO)設立
57年イラン国家治安機構(SAVAK)設立。C.I.A.とイスラエル情報機関がこれを支援。

1958年

2. 1 [「アラブ連合共和国」設立(エジプト/シリア) United Arab Republic
「アラブ連邦」(イラク王国/ヨルダン王国) Arab Federation
5. 10レバノン内戦開始。



- 7・14イラク「7月14日革命」14 July Revolution/
アブドゥルカリーム・カーシム Abd al-Karim Qasim/イラク共和国/Republic of Iraq
7. 15米第六艦隊海兵隊、レバノン上陸。
7. 17英降下部隊、ヨルダン進駐。
8. 21国連緊急総会/アラブ10ヶ国提案の米英軍撤退決議を採択。

1959年

- 1・1キューバ革命/7月26日運動 26th of July Movement/Fidel Castro/Che Guevara
- 59年アメリカ・シオニスト公共問題評議会/アメリカ・イスラエル公共問題委員会(AIPAC)と改称。
会員数五万人，年間予算750万ドルの圧力団体に成長。

1960年

- 4・*中ソ論争開始—「レーニン主義万歳」(人民日報・紅旗共同社説)
- 4月第2回アジア・アフリカ諸国民連帯会議(コナクリ・ギニア)
7. 26イラン，イスラエルを承認。アラブ連合はイランと断交。



- 9・14石油輸出国機構設立 Organization of the Petroleum Exporting Countries (OPEC)
- 12・20南ベトナム解放民族戦線結成 National Liberation Front (NLF) —ベトナム革命戦争開始
- 12・*アメリカ偵察機，ネゲヴ原子力研究センター(ディモナ原子力発電所・イスラエル)の存在確認。

1961年

- 1・20アメリカ/ジョン・F・ケネディ大統領(民主党) John Fitzgerald Kennedy
- 6・19クウェート Kuwait 独立
- 9・1第1回非同盟諸国首脳会議(ベオグラード)
- 9・28シリア・自由将校団クーデター/アラブ共和国再独立(アラブ連合離脱決定)



- 61年パレスチナ解放戦線(PLF Palestine Liberation Front)
Ahmed Jibril /Shafik al-Hut 結成
- 61年イラン・自由運動 National Front (Iran)/Freedom Movement of Iran (FMI)

1962年

7・5 アルジェリア独立(アルジェリア臨時政府・フランス「エビアン協定」)

9・25 アルジェリア民主人民共和国成立/ベン・ベラ大統領 **Ahmed Ben Bella**

9・25 北イエメン軍事クーデター/アブドッラー・アッ=サッラール大佐 **Abdullah al-Sallal** /
イエメン・アラブ共和国/Yemen Arab Republic



1963年

1・* イラン国王モハンマド・レザー・パフラヴィー「白色革命」提唱 **White Revolution**

2・8 イラク「ラマダーン革命」**Ramadan Revolution**/アブドッサラーム・アーリフ

2・4~11 第3回アジア・アフリカ諸国民連帯会議

3・8 シリア軍事クーデター「3月8日革命」バース党政権(ムハンマド・ウムラーン/サラーフ・ジャディード)

6. 16 ベングリオン・イスラエル首相辞任(建国以降15年間)



6・26 イスラエル/レヴィ・エシュコル **Levi Eshkol** 首相(マパイ・第11次)

11・11 イラク・クーデター/November 1963 Iraqi coup d'état. /アブドッサラーム・アーリフ

11・22 アメリカ/リンドン・ジョンソン大統領(民主党) **Lyndon Baines Johnson**

1964年



1. 13~16 第1回アラブ連盟首脳会談(14カ国/
カイロ) 1964 Arab League summit (Cairo)
武装ゲリラの統一を目指すことを確認。
エジプト、シリア、ヨルダンがファタハ等支持。
イラク、リビアは PFLP 等を支持し、その後も対
立した。

6. 2 第1回パレスチナ民族評議会 **First Palestinian National Council (PNC)** 執行委員会/パレスチナ解放軍 (PLA) /パレスチナ民族基金 (PNF) 設立/「民族憲章」採択
(PLO/パレスチナ解放機構設置合意)

パレスチナ民族憲章の骨子: パレスチナ全土を対象として、パレスチナ民主国家を創設。アラブ人もユダヤ人も同等の権利をもってパレスチナに住むことが許される。ただし住むことを許されるユダヤ人は、バルフォア宣言以前からパレスチナに住んでいた人達に限られる。さらに「イスラエル共和国」の存在そのものが完全に否定される。

9・5~11 第2回アラブ連盟首脳会議(アレキサンドリア)

10・14 ソ連共産党書記長レオニード・ブレジネフ **Leonid Brezhnev**



11・2 サウジアラビア国王 **Faisal Al Saud**

12・11 第19回国連総会(ゲバラ演説)

1965年

1. 1 ファタハ軍事部門「アーシファ」(嵐)、武装闘争開始

「コミュニケ」第1号「国境で待つ我々の抵抗する

人民の中から、革命的前衛は、武装革命がパレスチナと自由への道であると信じて前進した。
 ・わが敵は、わが強さと革命の歴史を忘れていようが、我々はどんな障害があろうとも、
 すべての陰謀が挫かれるまで武装闘争に訴える決心である」
 「パレスチナ人自身による武装闘争がパレスチナ解放への道である」

1・アラブ共同市場 Arab Common Market 設置(エジプト・イラク・ヨルダン・シリア)

5・9~16 第4回アジア・アフリカ諸国民連帯会議(ウィネバ・ガーナ)

5・31~6・4 第2回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 2nd Session (PNC) PLO創設(初代議長アハマド・シュケイリー)

6・26アルジェリア・クーデター。ブーメディエン Houari Boumédiène 軍事政権が成立(ベンベラ政権打倒)

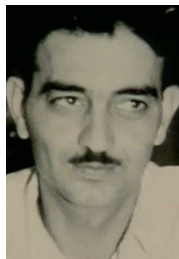
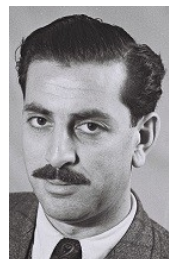
9・5イラン・モジャーヘディーネ・ハルグ結成 People's Mujahedin of Iran, (MEK,PMOI) マリアム・ラジャビ Maryam Rajavi/マスードラジャビ Massoud Rajavi/

9・13~17 第3回アラブ連盟首脳会議(カサブランカ)

10・1 イスラエル共産党結成 The Israeli Communist Party (Maki)



10・3 キューバ共産党 Communist Party of Cuba 再創立/Popular Socialist Party (Cuba)



65年イスラエル共産党(MAKI) 分裂—(総選挙を機に民族問題をめぐり分裂)

シモン・ミクニウス、モッシュェ・スネーらユダヤ人グループが主流派を握る。タウフィク・トウビらアラブ人活動家はラカハ(新共産主義者リスト)RAKAH (New Communist List)

結成 Tawfik Toubi/Emile Habibi// Meir Vilner

65年パレスチナ労働組合総連盟設立 Palestinian General Federation of Trade Unions(PGFTU) /Shaher Saed

1966年

1・3アジア・アフリカ・ラテンアメリカ人民連帯機構—設立 Organization of Solidarity with People of Asia, Africa and Latin America (OSPAAAL)

2. 21~23 シリア・バース党左派(ネオ・バース党)将校軍事クーデター。サラフ・ジャディイド將軍 反ナセル・親ソ連政権/カリード・バクダーシュ(シリア共産党書記長)帰国

5・16中国プロレタリア文化大革命開始—「五一六通知」/陳伯達・康生・江青・張春橋

5・20~24 第3回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 3rd Session

9・* 人民解放戦争前衛・サーイカ軍—結成(シリアバース党系)

Vanguard for the Popular Liberation War al-Saiqa As-Sa'iqah/Mohammed Qeis

10・* バース党第9回大会(シリア)ミッシェル・アフラフ等追放/ザキー・アル=アルスズビー創立者規定

10・* バース党「真」第9回大会(イラク・バース党・バイルート)/ミッシェル・アフラフ創立者規定

11. 4エジプト・シリア軍事協定調印

1967年第3次中東戦争(1967年戦争) Third Middle East War (1967 War/Six Day War)

1・* シリア, ソ連の軍事援助を受け、防勢戦略から攻勢戦略に転換。



4. 11アンドレイ・グレチコ Andrei Antonovich Grechko 元帥がソ連国防相に就任。中東重視の戦略を展開。

4. 27ナセル大統領, アンワル・サダトをソ連に派遣し対イスラエル戦争への支援を要請。

5. 5~10 第3次中東戦争 イスラエル軍, エルサレム市内で挑発的な軍事パレード。

5. 16ナセルの要請を受けた国連軍緊急部隊はシナイ半島から撤退。

5. 18アラブ連合軍, シナイ半島に進駐。

5. 22アラブ連合, チラン海峡のイスラエル海路を封鎖。

この海路は、イスラエルのアカバ湾への出口エイラート港と紅海をつなぐもので、スエズ戦争の停戦時にイスラエルが獲得した。

5. 23イスラエルで予備役の動員が発令、先制攻撃の計画が発動される。

6. 1 イスラエルで挙国一致内閣が成立。ダヤンが国防相に就任、右派のペギンも入閣。

6. 1マクナマラ米国防長官, ソ連の進出に対抗するため、イスラエルの先制攻撃計画を容認。

積極支援の方針を打ち出す。

6. 5第3次中東戦争勃発。 午前7時45分、イスラエル空軍のミラージュ戦闘機が超低空飛行で

エジプト領内に侵入。先制攻撃により空軍基地に駐機中のエジプト戦闘機300機を破壊。

ほぼ同時にシリアとヨルダンの空軍基地も撃滅される。War of Attrition/67・6~70・2) /Egyptian front

6. 5アラブ諸国はあいついでイスラエルに宣戦布告。

6. 6イスラエル軍、ガザを占領。 アラブ連合、スエズ運河を封鎖。

6. 6国連緊急安保理、即時停戦を決議。 アラブ諸国は相次いで米英両国と断交。

6. 7制空権を確保したイスラエル機甲部隊は、電撃作戦によりシナイ半島

を制圧。シナイ半島に展開していた8万のエジプト軍は砂のごとく崩壊。

6. 7イスラエル、東エルサレムの全域を確保。 ヨルダンは停戦を受諾。

6. 8アラブ連合、停戦を受諾。

6. 8イスラエル軍、ヨルダン川西岸全域を占領。 さらにシリア領ゴラン高原に進出。

6. 9ナセル、敗戦の責任をとり辞意表明。 翌日辞意を撤回。

6. 10シリア、イスラエルと停戦。 戦闘は6日間で終了。

このことから「6日間戦争」The Six-Day Warとも呼ばれる。

全パレスチナ人(327万人)の約半数の158万人がパレスチナ難民となる。

6. 10ソ連、イスラエルと断交。

6. 17国連緊急特別総会、中東処理について検討。

6. 19ジョンソン米国大統領、「中東問題5原則」発表。 ①イスラエル国家生存権の承認、

②パレスチナ難民問題の解決、③スエズ運河とアカバ湾における自由航行権、④軍備競争の制限、

⑤中東諸国の政治的独立と領土保全、を中東外交の柱とする。

6. 24ソ連のポドゴルヌイ議長、アラブ連合を訪問。 軍事援助の増強と軍事顧問団の派遣で合意。

ポドゴルヌイに同行したザハロフ元帥がそのままエジプトに残留。

6. 28イスラエル軍、エルサレム全市を掌握。

7. 14国連緊急総会、エルサレム併合撤回案を採択。

7. 16アラブ5カ国首脳会議(カイロ)。 イスラエルの侵略を排除する決意を表す共同声明を採択



7・31~ラテンアメリカ人民連帯機構 Organization for Latin American Solidarity (OLAS) 第1回大会(ゲバラ演説)

8. 29第4回アラブ連盟首脳会談(ハルツーム)/Khartoum Resolution

第三次中東戦争の事後処理を協議。エジプトはイエメンから軍を撤退させることに合意し、サウジアラビアとの関係を修復。

ファイサル国王は5千万ポンドの対エジプト援助を表明。

9. 27スエズ全域で、イスラエル・エジプト間に最大規模の砲撃戦が展開される。

10. 21アラブ連合艦、ミサイルでイスラエル駆逐艦を撃沈。

10. 24スエズ運河を挟んで、両軍がふたたび砲撃戦。 エジプト政府はポートサイド、イスマイリア、スエズの三都市住民に避難命令。

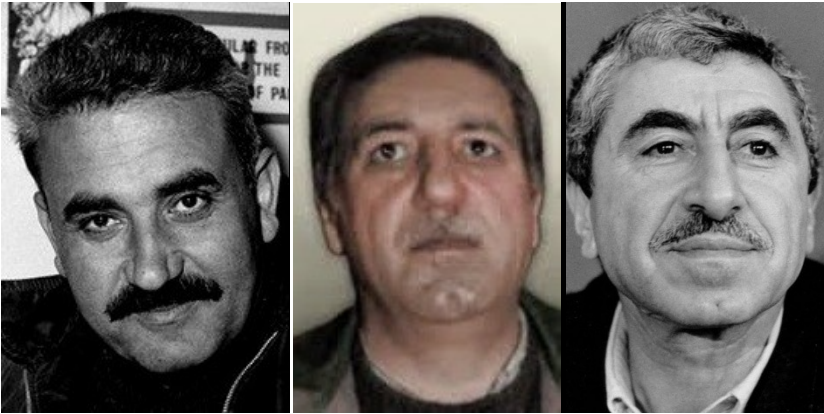
11. 22 国連安保理、イギリスが提案した中東問題に関する決議第242号を採択。

占領地からのイスラエルの撤退とイスラエルの生存権承認をセットにする。アラブ側は決議をボイコット。

11・30イエメン人民民主共和国独立(南イエメン・イギリス)/People's Democratic Republic of Yemen

11・* ウタント国連事務総長、中東問題担当特別代表にヤリングを指名。

安保理決議に基づく解決の道を探る。



12・*パレスチナ解放人民戦線 (Popular Front for the Liberation of Palestine PFLP AMN+PLF/George Habash/ Ahmed Jibril/ Nayef Hawatmeh



12・24PLO議長シュケイリ辞任。第2代PLO議長にヤヒア・ハマウダ選出。

67年イスラエル共産党(MAKI) 6日戦争を「イスラエル人民の物理的生存とイスラエル国家の主権とを守る防衛線」と規定、ソ連と絶縁する。

ソ連は「新共産主義リスト・ラカッハがユダヤ・アラブを含むパレスチナ人民の代表である」と宣言する。

1968年

1・*アラブ石油輸出国機構(OAPEC)発足

1・15「プラハの春」/チェコスロバキア共産党/アレクサンデル・ドゥプチェク Alexander Dubček /ズデネク・ムリナーシ Zdeněk Mlynář

2・*カイロで惨敗に怒る市民の暴動。10月にもふたたび発生



3. 21アルカラームの闘い/Battle of Karameh/ Fatah

イスラエル国内で子供を乗せたバスが、ファタハの仕掛けた地雷に触れ大破。イスラエル軍はヨルダン領内に侵入しファタハ基地(ヨルダン川東岸の町アルカラーム)襲撃。ファタハのコマンド部隊は、ヨルダン正規軍と協力しイスラエル軍の攻撃を撃退。

3. 24 国連安保理事会, 全会一致でイスラエル非難決議。

4・*チェコスロバキア共産党中央委員会「行動綱領」採択

7・1 第4回パレスチナ民族評議会 Palestinian National Council 4th Session(「民族憲章」修正)

7・17 イラク・クーデター/アフマド・ハサン・アル=バクル軍事評議会議長 Ahmed Hassan al-Bakr

7. 23 PFLP がハイジャック作戦開始。ローマからテルアビブに向かうボーイング707型エルアル機がハイジャックされ、アルジェリアに強制着陸。その後の半年間に外国航空機を3機乗っ取る。

7・29イラク・革命指導評議会設置 Iraq Revolutionary Command Council, (RCC)

7・* ナセル・アラファト、モスクワ訪問。

8・20 ワルシャワ条約機構軍、チェコ侵入、占領/「プラハの春」敗北

9・* PFLP 第1回大会

9. 8エジプト・イスラエル直接交戦開始。当初よりスエズ運河をはさんで、こう着状態となり、「消耗戦争」と呼ばれる。エジプトのミグ19とイスラエルの F4 ファントムの空中戦では、ミサイルを装備したファントムが圧勝。エジプト側は対空ミサイルSA6で対抗。

9・26アラブ社会主義バース党-シリア地域第4回地域指導部大会

10. 24エジプトとイスラエル, ふたたびスエズ運河をはさんで砲撃戦。

11・* エルサレムの市場で爆発事件。12人が死亡。

12. 26アテネ空港でイスラエル国営のエル・アル機がPFLP部隊に攻撃される。イスラエル人乗客1人が死亡しシュワデーデス2人が負傷。

12. 27イスラエル, ベイルートの国際空港を奇襲。

レバノン国営の中東航空 (MEA)機, 3機を破壊して報復. フランス籍の資産も破壊される



12・30 アラブ解放戦線 (Arab Liberation Front ALF) 結成 アフマドハッサンアルバクル - Ahmed Hassan al-Bakr



68年パレスチナ解放人民戦線総司令部 PFLP分派 Ahmed Jibril
The Popular Front for The Liberation of Palestine-General Command (PFLP-GC)

1969年

1. 7フランス, ベイルートに対する攻撃の報復として, 対イスラエル兵器禁輸決定.

1・20アメリカ/リチャード・ニクソン大統領 (共和党) Richard Milhouse Nixon

2. 1~4第5回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 5th Session/ 「政治声明」 Political Statement (PNC カイロ). ファタハなどのゲリラ諸組織が, 改組されたPLOに結集することで合意. 最大組織ファタハがサイカと連立し多数派を形成. PLOの方針を汎アラブ主義からパレスチナ民族主義に変更.



PLO 第3代議長ヤセル・アラファット (ファタハ) Yasser Arafat

2・12 パレスチナ武装闘争司令部 the Palestine Armed Struggle Command (PASC) 結成

2. 28 PFLP, チューリヒ空港でイスラエル国営のエル・アル航空機を銃撃.

乗客8人が負傷. エル・アル機に搭乗した秘密警察官がゲリラ4人を射殺.

2・* PFLP 第2回大会「綱領」「軍事戦略」



2・* パレスチナ解放人民民主戦線 (PDFLP) - PFLP の分派 Nayef Hawatmeh
(74年パレスチナ解放民主戦線 (DFLP) へ改称 The Democratic Front for The Liberation of Palestine)

2・* ソ連の援助により軍事力を強化したエジプト, スエズ運河東側のバー・レフ防衛線に連続砲撃を開始

3・* スエズ運河戦線を視察中のアラブ合同軍司令官アブドゥルムニムリヤド Abdul Munim Riad, イスラエルの集中砲火を浴び死亡.



3・17イスラエル/ゴルダ・メイヤ首相 Golda Meir (マアラハ・第5代)

4・1~24中国共産党第9回大会 (毛沢東/林彪) - プロレタリア文化大革命

4. 3中東和平のため米・英・仏・ソの国連大使が会談.

4・10ヨルダン国王フセイン, スエズ運河の自由航行を認めるなど6項目の和平提案.

5・25スーダン・クーデター 1969 Sudanese coup d'état.

ジャファール・ニメイリー Jaafar Nimeiry (ナセル派) 大統領就任.

6・* シリア共産党第3回大会 (カリード・バクダーシュ書記長再任 - 民族派 = アラブ統一派の分裂)

7. 14大国国連大使会議, 結論を出せないまま行き詰まる.

7. 3国連緊急安保理事会, イスラエル非難決議案を採択. イスラエルは決議受け入れを拒否.

7・23 PFLP - エル・アレ航空 426 便 HJ

8・* パレスチナ・ゲリラ,

レバノン南部からカチューシャ・ロケットをイスラエル領内に撃ち込む.

8・29 PFLP - トランス・ワールド航空 840 便 HJ (Leila Khaled 等)



9・1～6 第6回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 6th Session (PNC)

「政治声明」Political Statement

9. 1アラブ四カ国会議(カイロ)シリア, ヨルダン, イラク, スーダン, アルジェリアが参加.

18ヶ月以内に戦争を始めるための準備をすることで合意.



9. 1「リビア革命」1969 Libyan coup d'état/ムアンマル・アル=カッザーフィー中尉 Muammar Gaddafi 革命委員会議長に就任.

9. 9イスラエル軍, 紅海沿岸のエジプト領ザファラナに上陸.

9. 10ナセル, 第一回目の心臓発作.

9・25イスラーム諸国会議機構設立 Organisation of the Islamic Conference (OIC)

10. 22 レバノン政府軍とパレスチナ・ゲリラが最初の武力衝突.

11・2 「カイロ秘密協定」(カイロ)レバノン左派・PLO レバノン内部における PLO の自治, イスラエルに対する武装闘争の権利承認で合意が成立する.

12. 21～23 第5回アラブ連盟首脳会議(ラバト).

対イスラエル闘争援助をめぐり意見が対立. 共同声明を出せずに閉会.

この後ナセル, カダフィ, ニメイリがトリポリで「三国の完全な連合」をうたう条約に調印.

12・* イスラエル空軍のファントム戦闘機がスエズ運河西側のエジプト軍拠点を爆撃し, 壊滅に追い込む.



69年パレスチナ人民闘争戦線 (Palestinian Popular Struggle Front PPSF) 結成/ミール=グーシャ Samir Ghawshah /ハーリド・アブドゥルマジード Ahmed Majdalani

1970年

1. 13イスラエル軍, 「深部浸透爆撃作戦」エジプト本土への爆撃開始. カイロ近郊爆撃

1. 22ナセル大統領, アラファト議長ソ連訪問.

ソ連はミグ25戦闘機, SAM3対空ミサイルの配備と軍事要員の派遣を承諾.

3・11イラク, 「三月宣言」公布 Iraqi-Kurdish Autonomy Agreement of 1970.

5・30～6・4 第7回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 7th Session (PNC) PFLP 初参加

6・* ヨルダン内戦危機始まる.

6. 19スエズ戦線の停戦に向け, ロジャーズ国務長官が停戦提案.

7. 23ナセル, 革命記念式典でロジャーズ提案を受諾すると発表.

ゲリラ勢力はいつせいに反発するもナセルに対する公然批判は控える.

7. 30ソ連のミグ21とイスラエルのファントム戦闘機が, エジプト上空で空中戦. ミグ5機が撃墜される.

8. 7アメリカの調停を容れ, イスラエル, エジプト・ヨルダン停戦.

パレスチナ・ゲリラはナセルとヨルダン国王フセインへの非難を強める.

9. 6PFLP(エル・アル航空, スイス航空, TWA, パンアメリカン, BOAC 旅客機5機)HJ

後にヨルダンの旧空港に3機を駐機させ爆破



ヨルダン内戦/(黒い九月事件/Black September / the Jordanian Civil War

9. 16～27 ヨルダン正規軍, PLOへの攻撃を開始. アンマンで市街戦が展開される.

シリア軍が PLO を支持して内戦に介入するが, アメリカとイスラエルの圧力により撤退.

9. 22緊急アラブ首脳会談(カイロ). ニメイリが会議を代表してアンマン入り.

市内に潜伏中のアラファトをカイロに連れ帰る.

9. 27ヨルダン内戦, カイロ協定により停戦成立.

11日間の戦闘でゲリラは5千の死者を出しアンマン周囲から撤退, 北部ジェラシー山地一帯にこもる.

「黒い九月」の屈辱を晴らすと誓う. PLO本拠はレバノンへ移動.



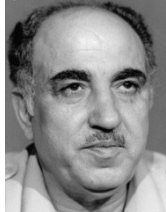
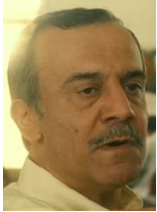
9. 28エジプトナセル大統領大動脈瘤破裂で急死(52歳).

アンワル・アッ＝サーダート Anwar Sadart 後継大統領

11. 13シリア「矯正運動」Corrective Movement (Syria)ハーフィズ・アル＝アサド国防相クーデター成立. サラーフ・ジャディド政権の親ソ連路線からの転換

11・* バアス党第10回臨時大会)

12・* 第2回イスラーム諸国会議機構外相会議



70年 PFLP Outside work station—EO (External Operations) —Wadie Haddad (Abu Hani)

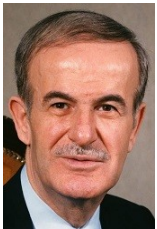
70年「黒い9月」The Black September Organization (BSO)結成
サラフ・カラフ Salah Khalaf

1971年

2・28～3・5 第8回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 8th Session

(カイロ)「パレスチナ革命の暫定政治計画」Interim Political Program of the Palestine Revolution

民主国家設立提唱. DFLP は「中間段階」論を主張. ヨルダン川西岸とガザにミニ国家を作り, パレスチナ「政府」の民族的権威を獲得することを訴える.



3・12 シリア・ハーフィズ・アル＝アサド首相 Hafez al-Assad, 大統領就任

4. 30 アラブ共和国連邦統合条約調印(エジプト, シリア, リビア). スーダン参加保留.

5・8～14 アラブ社会主義バース党-シリア地域第5回地域指導部大会

5. 16 サダト大統領, 政府部内のアリ・サブリ副大統領等ソ連派幹部一斉逮捕.

6・5 PLO、フセイン王政打倒宣言

7・7～13 第9回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 9th Session

「最終声明」Final Statement

7. 18 ヨルダン・フセイン王, 「アンマン協定」「カイロ協定」破棄.

パレスチナ・ゲリラの国外退去要求 ここまでにパレスチナ人死者は2万人を数える.

7. 19 スーダン・革命評議会左派クーデター. ニメイリ大統領を監禁/3日後に敗北しニメイリが政権に復帰.

8・* バアス党第11回大会(シリア)

11・28 「黒い9月」(ファタハ)、ヨルダン首相暗殺

12・2 アラブ首長国連邦独立 United Arab Emirates (UAE) /

アブダビ、ドバイ、シャールジャ、アジュマーン、ウム・アル＝カワイン、フジャイラ各首長国「連邦」

1972年

2・* Popular Revolutionary Front for the Liberation of Palestine (PRFLP) —PFLP 分派/Abu Shibab
—数か月後空中分解

2・*～3・* 第3回イスラーム諸国会議機構外相会議

3・* PFLP 第3回大会「新しい段階の課題」

4・6～12 第10回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 10th Session

「政治綱領」Political programme

5. 8 「黒い9月」サバナ航空 572 便 HJ. 服役中ゲリラ317人釈放要求.

イスラエル特殊部隊「サエルト」が機内に突入し男性ゲリラ2人射殺, 女性ゲリラ2人逮捕.

イスラエル人乗客1人死亡. /各国がハイジャックに対し強行態度で臨むようになる.

5. 30 PFLP パトリック・アルグレロ隊 PFLP— External Operations (PFLP-EO)

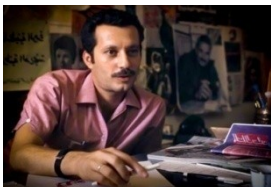
—リッダ闘争(イスラエル・テルアビブ空港襲撃) 奥平・安田・岡本の3戦士(奥平・安田戦死、岡本捕虜)

「赤軍からの宣言」(リッダ闘争声明・赤軍)

6・* PLO・レバノン政府, 南部レバノンの「アルクーフ地区」を訓練基地として使用することで合意.

7・1 アラブ共和国連邦(エジプト, シリア, リビア)成立. イランとの国交回復.

7. 8 サダト大統領, 18日以降のソ連軍事顧問団1万人以上の任務凍結, 引き揚げを要求. 右転回開始.



7・8 詩人ガッサン・カナファーニ Ghassan Fayiz Kanafan (PFLPのスポークスマン),
イスラエルの仕掛けた車爆弾で暗殺される。8月ガッサン・カナファーニを継いだバツ
サム・アブシャリーフも小包爆弾を仕掛けられ重傷



9. 5 「黒い9月」(ファタハ), ミュンヘン・オリンピック襲撃—イスラエル選手11人人質
ミュンヘン空港滑走路で、西ドイツ特殊部隊と銃撃戦, ゲリラ5人, 人質9人犠牲

Ali Hassan Salameh

9. * イスラエル軍3000人, レバノン南部侵入. パレスチナ難民キャンプ襲撃 数百人を殺害.
ダマスカス街道(ベイルート・ダマスカス間国道)に大量報復爆撃

10. 26 サダト, サディク総司令官を解任. 国防次官, 海軍司令官, 情報部長らを更迭.

10. 29「パレスチナの鷹(PFLP系)」ハイジャック(ルフトハンザ機).

西独政府は、人質と引き換えに「ミュンヘン事件」で逮捕された3人釈放.

1973年 第4次中東戦争 Fourth Middle East War/Ramadan war/The Ten-Day War

1・6~12 第11回パレスチナ民族評議会(PNC) Palestine National Council, 11th Session

「政治綱領」 Political Program

2. * イスラエル軍空軍機がリビア航空機を撃墜. 乗客・乗員104人が犠牲となる.

2. * エジプトとシリア, 合同作戦計画の策定に着手.

3. * 第4回イスラーム諸国会議機構外相会議

4. 10イスラエル特殊部隊がベイルートのPLOを奇襲. PLO幹部3人を同時暗殺しPLO傘下のソシオの爆破
レバノン軍とパレスチナ・ゲリラとの間でキャンプ戦争開始.

5. * エジプト, いったん動員令を発動するが, まもなく取り下げ.

7. 17アフガニスタン共和国創設/ムハンマド・ダーウード/Mohammed Daoud Khan

/National Revolutionary Party of Afghanistan

7. 16イラク国家進歩主義戦線結成 National Progressive Front (Iraq)/

Ahmed Hassan al-Bakr

(アラブ社会主義バース党・イラク共産党・クルディスタン革命党・クルデスタン民主党)

7. 20 ドバイ「闘争」(「非占領地の息子たち」PFLP)

パリ発東京行きの日航機を、アラブ赤軍と4人のパレスチナゲリラがハイジャック、
アラブ首長国連邦のドバイ空港を経てリビアのベンガジ空港に着陸させ、リビア当局に投降。
後、交渉で釈放さる

7. 21モサドの暗殺チーム, ノルウエーでPLO 幹部「赤い王子」の暗殺に失敗.

多数がノルウェー当局に拘束され, 国際的なスキャンダルに発展.

8. * サウジアラビア, 開戦時に石油戦略を発動することで合意.



10. 6 「第4次中東戦争」(10月戦争)開始. エジプト軍がスエズ運河を渡りバー
レブ・ラインを突破. 同時にシリアも戦闘開始.

10月戦争: アラブ側では, 10月がイスラームで断食月(ラマダン)にあたることから,
ラマダン戦争とも呼ばれる. イスラエル側では, ユダヤ教の安息日ヨム・キップル
に奇襲攻撃が開始されたことからヨム・キップル戦争ともいう. エジプト, シリア両
国は50万の兵力, 4500台の戦車, 重火器3400台, 戦闘機1080機を動員し

た. 南部戦線では1000台の戦車と10万の兵力がスエズ運河を渡り, 対岸に橋頭堡を形成した. 北部戦線で
は1400台の装甲車と600台の戦車, 三個師団がゴラン高原に進出した.

10. 11イスラエル軍, シリア戦線で反撃に移る.

国境を越えシリア領内深く侵入. ダマスカスまで30キロの地点まで進出. ソ連は本格介入を検討.

10. 15エジプト戦線のイスラエル軍, スエズ運河正面で反撃に転じ,

スエズ市方向に南下しエジプト第3軍の背後を攻撃.

10. 16シャロン将軍の率いるイスラエル軍が, スエズ運河を越えてエジプト領内に侵入.

エジプト第3軍はシナイ半島に取り残される.

10. 17アラブ石油輸出国機構緊急会議 Organization of the Arab Petroleum Exporting Countries,

OAPEC. 石油戦略の発動を決める特別決議を可決.

「国際社会が占領地域の放棄をイスラエルに強いるまで, 石油生産の5%以上を毎月削減する」と発表.

これにより「オイルショック」発生.

10. 22国連はイスラエルに有利な米ソ共同停戦案(国連安保理決議338号)を採択.

第4次中東戦争が停戦.

サダトは国会で「和平のためならたとえクネセトへでも行く用意がある」と述べる。

10. 23イスラエル軍、国連安保理決議を無視し、エジプト軍への攻撃を続行。

ソ連は直接介入の構えを見せる。

アメリカは核警戒態勢を発令すると同時に、イスラエルに対して休戦をもとめる。

10. 25停戦が発効。この戦争でエジプト・シリア連合軍は戦車2000台を失い、1万人の死者を出した。

イスラエル側も兵士2838名が死亡し、8800名が負傷。

エジプト軍部隊のソ連製対戦車ミサイルがイスラエル戦車550台を破壊。

地对空ミサイルはイスラエル機50機を撃墜。

11. 22日本・二階堂官房長官、イスラエルの全占領地からの撤退を求める談話を発表。

日本政府は石油戦略を優先し、アラブよりの政策変更。

11・25～26第6回アラブ連盟首脳会議(アルジェ)

1974年

1・31アラブ赤軍・PFLP、シンガポール精油所爆破「闘争」

2・* PFLP 等拒否戦線結成

(Rejectionist Front/ Front of the Palestinian Forces Rejecting Solutions of Surrender)

西ヨルダン地区とガザにミニ国家を作るというファタハの案に反対。

①Arab Liberation Front (ALF)/②As-Sa'iqa/③Abu Nidal's Fatah-Revolutionary Council/④Democratic Front for the Liberation of Palestine (DFLP)/⑤Palestinian Popular Struggle Front (PPSF)/⑥Popular Front for the Liberation of Palestine (PFLP)

⑦Popular Front for the Liberation of Palestine – General Command (PFLP-GC)

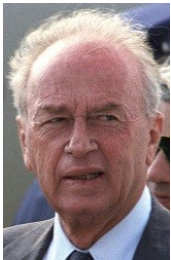
2・* 第5回イスラム諸国会議機構外相会議・第2回首脳会議

5・1第6回国連資源特別総会決議「新国際経済秩序樹立に関する宣言」

declaration on the establishment of a New International Economic Order;

6. 1～9 第12回パレスチナ民族評議会 12th Palestine National Council

ガザ・西岸に「民族的権威の設立」などを含む10項目を採択。



6・3イスラエル/イツハク・ラビン首相 Yitzhak Rabin(マアラハ・第17次)

8・8 ウォータゲート事件(ニクソン辞任。副大統領フォードが昇格)。

8・9アメリカ/ジェラルド・R・フォード大統領(共和党)Gerald Rudolph Ford Jr.

9・13 ハーグ「闘争」 オランダ・ハーグのフランス大使館を占拠。

フランス当局に拘禁中の山田義昭を釈放させた

9・27PFLP、PLO執行部から撤退(81年復帰)

10・29第7回アラブ連盟首脳会議(ラバト) PLOをパレスチナの唯一の代表として承認。

パレスチナ国家建設の権利を承認。

PLOは、世界各地に100カ所を越す代表部や事務所を開設。

11・4～イラン、ホメイニ派学生、アメリカ大使館占拠/アメリカ大使館人質事件 Iran hostage crisis



11. 13国連総会、パレスチナ人の民族自決権、パレスチナ国家の樹立の権利を認める。PLOをオブザーバーとして招請。アラファト議長がオリーブの枝をかざし総会演説。

アラファト演説要旨

革命家とテロリストの違いは、何のために戦っているかという点にあります。正しい目的を持って、自分自身の土地を侵入者、入植者、植民地主義者から解放し、自由にしようとしているものを、決してテロリストと呼ぶことはできません。でなければ、イギリス植民地主義者からの解放のために戦ったアメリカ人は、テロリストになります。ヨーロッパでのナチスに対するレジスタンスはテロリズムになります。そしてこの会議場におられる数多くの人々もテロリストということになるでしょう。



74年ファタハ革命評議会(Fatah Revolutionary Council) (PLO一分派)

アブ・ニダル機構(ANO) サブリー・アル＝ハシナー アブ・ニダル

74年DFLP (PDFLP改称)Democratic Front for the Liberation of Palestine(DFLP)

1975年第1次レバノン内戦(第5次中東戦争) First Lebanese Civil War

2. 26 マロン派シャムーン元大統領(レバノン南部のサイダ市)、漁民の権利剥奪
反対デモの中でサイダ市長が銃撃死亡。

3・6イラク・フセイン国家評議会副議長/イラン・シャー国王会談

4・5~15アラブ社会主義バース党-シリア地域第6回地域指導部大会



4.13 「アイン・ルンマーネ事件」Ain el-Rammaneh incident 発生。

ベイルート郊外南部のアイン・ルンマーネ地区のキリスト教会で集会が行われていた。この時PLO支持者達のバスが教会前を通りかかり、居合わせたファランヘ党のメンバーがこれに銃撃戦により22名死亡

27人負傷。レバノン内戦の始まりとされている。

4. 14衝突はトリポリ、サイーダにも拡大。100名以上が死亡する。

4・17カンボジア革命—民主カンプチア樹立 Democratic Kampuchea/クメール・ルージュ/Khmer Rouge

4・30ベトナム革命—ベトナム共和国(南ベトナム)崩壊

5. 13 マロン派キリスト教徒ファランヘ党員4人が射殺される。(レバノン)

1年半にわたるレバノン内戦が勃発。

6・*スエズ運河が、第3次中東戦争以来8年ぶりに開通。

9. 4 「シナイ暫定合意」ジュネーブ Sinai Interim Agreement(エジプト・イスラエル間第2次兵力引離し協定)
この協定によりイスラエル軍はスエズ運河から15キロ東に撤退。

9・*第6回イスラーム諸国会議機構外相会議

11・*国連総会、シオニズムを人種差別主義と非難する決議を採択。

12・*ヨルダン川西岸地区 West Bank ナザレ市 Nazareth アラブ人の共産党員市長誕生。

12・*キューバ共産党第1回大会

75年 The Green Book (Muammar Gaddafi)

1976年

3・*イスラエル・ラビン政権、ファランヘ党との同盟密約(対パレスチナ)

3. 30 ガラリア地方で土地取り上げに反対する「土地の日」統一行動で、農民、市民虐殺される
「民族はひとつ、戦いはひとつ」のスローガンの下、パレスチナ人数十万人が行動に立ち上がる。

4・*西岸地区の総選挙。共産党とPLO支持派の勝利。

5. 8 レバノン停戦成立。臨時内閣組織され、閣議決定によってエリアル・サルキス暫定大統領が選ばれる。
大統領がアラブ平和維持軍を指揮する形をとるが、実際にはサルキスはシリア軍のカイライに過ぎず。

5・*第7回イスラーム諸国会議機構外相会議

6・*PLOはシリアに対してレバノンへの介入停止を要求。

6. 27アブ・ハニ派(PFLP-EO)・ドイツ赤軍派(RAF)(ウガンダ・エンテベ「闘争」)

テル・アビブからパリに向かうエール・フランス機を乗っ取る。飛行機はウガンダのエンテベ空港に着陸。
親アラブのアミン大統領は、PFLPの協力要請を受け作戦部隊を警護。

7・2ベトナム社会主義共和国成立 Socialist Republic of Vietnam

7. 4モサドの特殊部隊、3機の大型輸送機をエンテベ空港に着陸させ、

警備にあたっていたウガンダ兵を射殺しながら旧乗客ターミナルに突入。

ハイジャック犯七人とウガンダ兵士45人を殺害し、そのまま脱出に成功。人質の犠牲者はわずか1人。
戦闘部隊の死者は司令官のヨナタン・ネタニヤフ(ネタニヤフ首相の兄)のみ。

8. 13PLO反主流派のPFLが入るベイルート市内のビルが爆破され、150名の死者を出す。

PFL/PFLP-GCの分派

8. 30レバノンのファランヘ党を中心とするキリスト教民兵組織が合同し、「レバノンフォース」を設立。

ファランヘのバシール・ジェマイエルが司令官に就任。

9・9毛沢東(中国共産党)死去

9・*レバノンのファランヘ党とイスラエル軍が、作戦の連携で合意。

10・8中国「四人組」逮捕^文化大革命終焉

10・*シャムーン元大統領派の民兵「タイガー」が、パレスチナ難民キャンプ「タルザータル」(人口3万人)を
包囲、虐殺。シリア軍、PLAの全面介入により包囲は排除される。

10. 12サルキス大統領によるアラブ連盟への要請を受けて、アラブ合同平和維持軍として、

シリア軍がレバノン進駐開始。崩壊寸前のファランヘ党は息を吹き返し PLO を攻撃。
ベイルート郊外のタールザータル難民キャンプでは、レバノンフォースタイガーの包囲虐殺で
パレスチナ人500名が生き埋めにされ、400人が死亡。

- 10. 21シリア軍がベイルートを制圧。レバノン停戦協定が締結される。内戦は6万の死者を出して終息。
- 10・25～26第8回アラブ連盟首脳会議(カイロ)
- 10・* サルキス大統領は内戦の終結を宣言。アラブ首脳会談開催。
アラブ平和維持軍の下でレバノン停戦の監視に責任を持つことで合意。
- 11. 10アラブ平和維持軍がレバノン全土に展開。
PLO はベイルートの本部設置とレバノン南部での活動を認められる。
パレスチナ人は難民キャンプの自衛力強化に全力。
- 11. 17PLO のカドゥミ政治局長、ミニパレスチナ国家設置構想の受け入れを表明。
イスラエルはカドゥミ提案の受け入れを拒否。

1977年

- 1・20アメリカ/ジミー・カーター大統領(民主党)James Earl Carter
- 3・2リビア全国人民会議「人民主権宣言」社会主義リビア・アラブ・ジャマールヒリヤー国
Socialist People's Libyan Arab Jamahiriya 移行(リビア・アラブ共和国廃止)
1986年大リビア・アラブ社会主義人民ジャマールヒリア国 Great Socialist People's Libyan Arab
Jamahiriya と改称
- 2・* PLO東京事務所開設/代表 Fathi Abdul Hamid/Baker Abdel Munem/Waleed Ali Siam
～1995年閉鎖
- 3. 11ファタハ、ディル・ヤシン作戦を執行。決死隊がイスラエルの海岸に上陸。
ゲリラ活動により100人余りを殺傷。イスラエルはレバノン南部に越境攻撃。
- 3・12～22 第13回パレスチナ民族評議会(PNC)Palestine National Council, 13th Session
- 3. 16国連安保理、イスラエルに撤兵を要求。暫定国連軍の派遣を決める。
- 3・*レバノン軍内でPLOの影響を受けた民族主義派の反乱。



- 4・24パレスチナ解放戦線(Palestine Liberation Front PLF)結成
パレスチナ解放人民戦線総司令部(PFLP—GC)分派
Muhammad Zaidan (Abu Abbas) / Wasel Abu Yusef
- 5・* 第8回イスラーム諸国会議機構外相会議



- 6・20イスラエル総選挙/メナヘム・ベギン首相(リクード)Menachem Begin(第18次)
建国以来30年労働党支配終焉。

ガザ・西岸地区を領土として取り込む「大イスラエル主義」を掲げる。「67年の国境線には戻らない、PLO は認めない、パレスチナ国家 は許さない」という「三つのノー」の立場を貫き、
パレスチナとの対応は暴カー本やりとなる。

- 9・28ダッカ「闘争」日本赤軍、日航機ハイジャック、バングラデッシュのダッカ空港に着陸させ、
乗員・乗客 151 人の人質と交換に、拘留中の奥平純三・城崎勉・大道寺あや子・浴田由紀子・泉水博
・仁平映ら 6 人と現金 600 万ドル(当時約 16 億円)をダッカに移送させた。

- 10. 13～17アブ・ハニ派・「ドイツ革命細胞」ソマリア・モガディシオ「闘争」
ルフトハンザ航空機ハイジャック。ドイツ治安部隊突入で作戦部隊殺害
- 11. 22サダト大統領、エルサレム電撃訪問。クセネトでアラブとの和解をよびかける。
- 12. 1トリポリ会談(イスラエルとの和解反対、アルジェリア、リビア、シリア、南イエメン、イラク)
- (12・2 国連総会決議「パレスチア人民連帯国際デー」=11・29)
- 77年 アレキサンドリア、カイロ物価騰貴に抗議する民衆暴動。サダトは経済危機脱出のためアメリカに屈服。

1978年



3. 12ファタハ「ダラール・モグラビー作戦」(テルアビブ空港襲撃)ゲリラ11人がテルアビブ北方に上陸し、ハイウェイで観光バスを乗っ取り、そのままテルアビブ市街地に向かう。イスラエル軍と銃撃戦 Dalal Mughrabi

3. 15イスラエル、リタンニ作戦決行。レバノンに侵攻

3・*イスラエル軍、レバノン南部に部隊残留、事実上占領。

3. 26 キャンプデービッド交渉(エジプト・イスラエル)

イスラエルはシナイ半島の返還と入植者の立ち退きを受け入れる。

3・30アブ・ハニ(ワディエ・ハダード PFLP)病死

4・27アフガニスタン「四月革命」/アフガニスタン民主共和国/Saur Revolution/Democratic Republic of Afghanistan/People's Democratic Party of Afghanistan/ヌール・ムハンマド・タラキー/
Nur Muhammad Taraki

4・*レバノン正規軍東部軍管区(レバノン南部)司令官のサード・ハダット少佐、自由レバノン軍と改称しイスラエル軍を肩代わり。中央政府支配(ベイルート)からの分離・独立宣言。

8・31イラン、主要15都市で総計150万人反政府デモ

9・8イラン、反皇帝デモに発砲。

9・15~17「キャンプデービッド合意」(米国・イスラエル・エジプト)

ベギン、サダトはノーベル平和賞獲得。イスラエルはレバノン南部に侵入し事実上占領。

9・28 キャンプ・デーヴィッド合意抗議集会(声明)

11. 2 第8回アラブ連盟首脳会議(バグダード)。エジプトを除く20カ国とPLOが参加。

キャンプ・デービッド合意を強く非難。エジプトに対する制裁の基本原則を定める。

11・5イラン、シャリーフ・エマミ内閣総辞職、アズハーリー国軍参謀総長終章就任。

11・7イラン、ホメイニ師・国民戦線 National Front (Iran)、軍事政権打倒宣言

11・10「キャンプ・デーヴィッド合意への反対会議声明」

12・18~中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議「開放改革」政策決定

1979年

1・15~22 第14回パレスチナ民族評議会(PNC)Palestine National Council, 14th Session

「民族統一綱領」 National Unity Programme

1・3イラン・バフティヤール首相政権 Shapour Bakhtiar

1・10カンボジア/カンプチア人民共和国樹立 People's Republic of Kampuchea/ヘン・サムリン Heng Samrin

1・12イラン・イスラーム革命評議会設立(ルーホッラー・ホメイニ師) Council of the Islamic Revolution

1・16イラン、モハンマド・レザー・パフラヴィー皇帝、国外退去

2・9イラン全国抵抗運動結成 National Resistance Movement of Iran

(バフティヤール派)、ホメイニ派との対決

2. 21イラン革命開始/イテヘラン民衆がイスラエル大使館を占拠。PLO事務所とする。

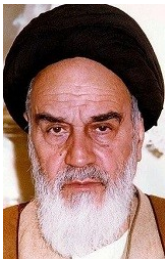
3. 20 ベギン首相、国会で演説。①西岸・ガザにパレスチナ国家を建設することは許さない。

②67年の境界線には決して戻らない。③統一エルサレムは永遠にイスラエルの首都とする。

3. 26エジプト・イスラエル平和条約締結 Egypt-Israel Peace Treaty.

3. 31アラブ首脳会議(バグダード・16カ国とPLO)

原油供給の停止を柱とするエジプト制裁を決議。アラブ連盟本部はカイロからチュニスに移される。



4・1 イラン革命/イラン・イスラーム共和国樹立 Iranian Revolution/Islamic Republic of Iran/Ruhollah Khomeini

4. 18レバノン東部軍管区司令官が独立を宣言。「自由レバノン軍」を設立。

5. 5「イスラーム革命防衛隊」Islamic Revolutionary Guard Corps 創設(ホメイニ師)発表。
二重権力継続の意向

5・*シナイ半島がエジプトに返還される。



7・16 イラク・サッダーム・フセイン(バアス党書記長)

Saddam Hussein 大統領・革命評議会議長就任

(7・19ニカラグア/サンディニスタ革命 Nicaraguan Revolution/

Sandinista National Liberation Front (FSLN))

9・* 南アとイスラエル核爆弾を共同開発。南ア沖で最初の核実験。

11・20 アル＝ハルム・モスク占拠事件(イスラム復古主義者ジュハマン・ウタイビ/サウジアラビア・メッカ)

11・20～22 第10回アラブ連盟首脳会議(チュニス)

12・22～80 年1・7アラブ社会主義バース党-シリア地域第7回地域指導部大会

12・24～89 年2・15 ソ連軍のアフガニスタン侵攻

1980 年

1. 26エジプト・イスラエル国交樹立。

7・* イスラエル国会、「エルサレム基本法」採択。エルサレムを恒久の首都と定める宣言。

さらに占領地への入植を強化。

9・22イラン・イラク戦争 イラク、イラン各地に爆撃

11・21～22第11回アラブ連盟首脳会議(アンマン)

12・24イラン、モジャーヘディーネ・ハルグ/イラン国民抵抗評議会とイスラーム革命防衛隊対立

National Council of Resistance of Iran (NCRI)

80年「民主連合」結成 PFLP/DFLP/PPP/PLF

1981 年

1・20アメリカ/ロナルド・レーガン大統領(共和党) Ronald Wilson Reagan

4・11～19 第15回パレスチナ民族評議会(PNC) Palestine National Council, 15th Session/ダマスカス

5・* イスラエル総選挙。ペギン首相(リクード)再選。

6・7バビロン作戦 イスラエル空軍機、バグダード近郊の原子力センター爆撃

7・* イスラエル・レバノン停戦協定発効。

8・30イラン首相府爆破 /ラジャイ大統領、バーホナル首相死去

10・1 ヤセル・アラファトPLO議長初来日



10. 6サダト大統領、観兵式でイスラーム主義将校に射殺される。

ホスニー・ムバーラク Muhammad Mubarak 大統領任命

12・* イスラエル国会、ゴラン高原併合を可決。



81 年イスラム聖戦(運動)結成 Fathi Shaqaqi

1982 年第6次中東戦争 Sixth Middle East War

2・* パレスチナ共産党再建 Bassam as-Salhi

4・* シナイ半島のエジプトへの返還が完了。

6. 3駐英イスラエル大使ロモ・アルゴブ、重症を負う。PLOはすぐさま事件との関わりを否定。

6. 4「ガラリヤ平和作戦」Operation Peace for Galilee シヤロン国防相、駐英大使襲撃事件を口実に、

イスラエル空軍が2日間にわたりレバノン南部に大規模爆撃を繰り返す。

6. 6第6次中東戦争(レバノン戦争)開始。イスラエル軍機甲部隊がレバノン国境を越え侵攻

レバノンの戦力配置

正規軍として ①イスラエル軍:リタニ川の南部に1万人。ただし重要作戦時は数万。②シリア軍(アラブ平和維持軍):北部・東部・リタニ川以北の南部に3万人。③レバノン正規軍:ベイルート中心に5千人。④暫定国連軍

(UNFIL): 77年以降, シリアとイスラエルの軍事境界地帯に7千人.

不正規軍として ①イスラエルと協力する右派キリスト教民兵: ベイルート市内東部とレバノン南部に3万人. ②パレスチナ人武装組織: 各組織の合計で1.5万人. ③パレスチナと連帯するレバノン左派勢力: 諸組織あわせ1万人以上

6. 8シリア軍, イスラエル軍と対決に入る.
6. 8国連が停戦案を提示. PLO とレバノンを受諾の意向を示すが, イスラエルは拒否.
6. 8イスラエル・シャロン国防相, 当初の作戦計画を変更. ベイルート占拠とPLO 殲滅を目指す.
6. 9国連安保理, イスラエル非難決議を提出. アメリカのレーガン政権は拒否権を行使.
6. 9イスラエル軍, シリア軍ミサイル基地19箇所を完全破壊. シリア空軍機82機を撃墜.
6. 11シリア, ベカー高原を占領されたまま, イスラエルに事実上降伏.
6. 13イスラエル軍, ベイルートに達し, 大統領府を占拠. ダマスカスに通じる国道を封鎖.
クラスター爆弾, 黄燐爆弾, バンカー・バスターなどの残虐兵器が使用され,
この日一日だけで1500人が爆撃により死亡.
6. 14イスラエル軍, 2ヶ月にわたり PLO 本部を包囲. 砲撃で威圧しPLOに退去を迫る.
6. 15イスラエル軍とファランジストが共同作戦. レバノン警察の調べで1万人が死亡,
負傷者は1万7千人にのぼる.
6. 20救国委員会(サルキス大統領)開催. PLO の降伏とシリアの撤退を呼びかける.
レバノン民族運動(ドルーズ派, シーア派アマル)のみがこの提案に反対.
6. 22カンボジア/民主カンブチア連合政府樹立 Coalition Government of Democratic ampucheas(CGDK)
6. 24 ドルーズ派の指導者ワリド・ジュブラット, PLO 幹部と会見.
「時間稼ぎは止めて降伏すべき」と勧告する.
6. 25イスラエル軍, 第一波の市内爆撃を停止.
6. 27ベイルートを700台の戦車と21基の榴弾砲が包囲.
40万人のレバノン人が住むベイルート市内に砲弾を撃ち込む.
国連などの援助物資も市内搬入を拒まれる.
6. 28シーア派民兵組織アマル, PLO の撤退を要求.
6. 28PLO, 条件つき撤退案発表. イスラエルはこの提案無視.
7. 5イスラエル軍, 第二波の市内爆撃を開始. 1週間にわたり連続.
7. 22イスラエル軍, 第三波の市内爆撃を開始. 最大規模の爆撃が三週間にわたり連続.
8. 4イスラエル地上軍がベイルート市内に突入. レバノン首相の事務所, レバノン情報省,
アンナハル新聞社, フランス国营放送, UPI, AP 通信社を破壊.
8. 9国連安保理, イスラエル非難決議を採択. しかしソ連が提出した対イスラエル制裁決議案は,
アメリカの反対によって否決される.
8. 121日で4万発の爆弾が投下される.
8. 15アラファト, アメリカの仲介でレバノンからの撤退を決断.
8. 18レバノン政府とイスラエル政府, ハビブ米特使の提案した最終調停案を承認.
PLO勢力ベイルート退去承認.
8. 21フランス軍がベイルート市内に入る. PLO 撤退開始
ここまでの死者2万人, 負傷者3万人を数える.
8. 25アメリカ海兵隊, 停戦監視のためベイルート上陸. シリア軍のレバノン撤退開始



9. 16~18 サブラとシャティーラ(ベイルート市)の虐殺/Sabra and Shatila massacre

9. 1~11 中国共産党第12回大会(胡耀邦/鄧小平)

9. 1米国レーガン大統領「中東和平案」発表

9. 2 PLO 部隊9千名ベイルート撤退終了. チュニス(チュネジア)に司令部を設置

バシール・ジェマイエルの率いるレバノン・フォースは, その後もイスラーム民兵との戦闘継続.

9. 6~9 第12回アラブ連盟首脳会議(フェズ), イスラエル寄りのアメリカの和平案に対抗して「フェズ憲章」を採択. この中で初めてイスラエルの生存権を認める.
9. 10米軍, 伊軍, 仏軍が相次いでベイルートを離れる.

- 9. 13イスラエル軍, ベカー高原のパレスチナ難民キャンプに大規模な爆撃.
- 9. 14爆弾で, レバノン・フォース本部が破壊され, 「大統領」就任を目前にしたジェマイエルが暗殺される.
- 9. 15イスラエル軍, 西ベイルートに侵攻. アメリカン大学への砲撃を開始.
イスラエル軍北部方面司令官は, レバノン・フォース指導者と会見, パレスチナ人の報復殺害を勧める.
- 9. 16レバノン・フォースは, サブラとシャティエーラのパレスチナ難民キャンプに報復攻撃.

48時間にわたる作戦でパレスチナ難民2000人以上が虐殺される.
当時, 難民キャンプはイスラエル軍が包囲しており, イスラエル軍首脳がキリスト教民兵を侵入させ, 逃げ出そうとする民衆を押し返し, 民兵の虐殺するに任せた.
シャロンはベイルート司令官の「友人たちがキャンプに入った」という報告に,
「おめでとう. 友人たちの作戦は正しい」と語ったという. イスラエル政府はパレスチナ住民虐殺を黙認したとして, シャロン国防相を解任した.

- 9. 24米海兵隊を主軸とする米軍, 伊軍, 仏軍混成部隊が, レバノン平和維持軍としてベイルート進駐.
- 9. 25テルアビブで, シャロンの難民虐殺に抗議する大規模反政府デモ.
- 11・12ソ連共産党書記長ユーリ・アンドロポフ Yuri Andropov
- 82年ヒズブッラー (Lebanese Hizballah) 結成 (ハサン・ナスルッラーフ)

「ヒズブッラー」はヒズブ・アラー(神の党)という意味.
精神的指導者は, レバノンのシーア派最高権威者のシャイフ・ムハンマド・フセイン・ファドラウー師.
イスラエル当局の推定では, 戦闘員の数は1万人前後, イランからの援助額は年間7000万ドル.
パレスチナ人を支持し, ハダット少佐の自由レバノン軍(SLA)と対峙

1983年

- 2・14~22 第 16 回パレスチナ民族評議会 (PNC アルジェ) Palestine National Council, 16th Session
「最終声明」Final Statement フェズ憲章の受け入れをめぐる論争
- 4. 18アメリカ大使館(ベイルート)で自動車爆弾が特攻攻撃を敢行. 63人が死亡,
120人が重軽傷を負う
- 5・2イラン、トゥデー党非合法化 Tudeh Party of Iran/ communist party of Iran/Noureddin Kianouri/
Ali Khavari
- 5・17レバノン・イスラエル「5. 17合意」成立(米国の圧力)
- 5・PLO 内の幹部人事をめぐる内紛. アブ・ムーサらファタハ左派が指導部の民主化を求めて反乱.
PFLP と DFLP は左派を支持するが, 武力対立には反対の立場を貫く.
- 6・* PLO 反主流派、PFLP, DFLP「ダマスカス声明」
- 8. 30 ベギン首相が辞任. 相次ぐイスラム過激派の自爆攻撃、レバノン占領軍兵士の死者500人を超える.
- 10・10 イスラエル/イツハク・シャミル首相(リクード・第20次) Yitzhak Shamir
- 10・* 革命的パレスチナ共産党 Revolutionary Palestinian Communist Party (RPCP) 結成
- 10. 23米海兵隊司令部ビル(ベイルート空港隣接)に車爆弾が突入.
続いてアメリカ海兵隊の兵舎に爆弾. 241人が死亡.
さらにフランス空挺師団の兵舎にも車爆弾が突入し72人が死亡.
- 11. 4イスラエルの兵舎にも車爆弾. 60人以上が死亡.
- 12. 3シリア軍がアメリカ軍機に発砲. (ベイルート近郊)
- 12. 4アメリカ軍, 地中海上の空母ジョン・F・ケネディと空母インディペンデンスからF-14トムキャットを飛ばし,
シリア軍に攻撃を加える. 対空砲火で戦闘機2機が撃墜される.
- 12・* レバノン PLO 内戦, 救国戦線(アブ・ムーサ派, PSF, PFLP—GC, サイカ)が勝利. ファタハ・アラファト派
レバノン北部のトリポリから撤退.



83年ファタハ蜂起派 (Fatah al-Intifada) —ファタハの分派結成
サイード・ムラーカ将軍 (Said al-Muragha)

83年パレスチナ解放戦線(アブニダル・アシュカル派) 結成

Palestinian Liberation Front (Abu Nidal Ashqar wing)/ Abu Nidal Ashqar

83年パレスチナ解放戦線(アブドウル・ファタガニム派)

Palestinian Liberation Front (Abd ul-Fattah Ghanim wing)/ Abd ul-Fattah Ghanim.

83年ヘブロンで, ユダヤ人入植者がパレスチナ人4人を射殺.

1984年

2. 6シーア派民兵アマルが、西ベイルートを奪還。ファランジストを駆逐。
2. 13ソ連共産党書記長コンスタンティン・チェルネンコ Konstantin Chernenko
2. 20アマルに続きドルーズ派の進歩社会主義党の民兵が西ベイルートに入り、
ダマスカスとの回路を確保。レバノン救国戦線がアメリカ海兵隊を包囲。
2. 26アメリカ海兵隊 レバノン撤退。これにつづいて仏軍と伊軍も撤退。
ベイルート西部地域がレバノン救国戦線(レバノン左派)の支配下に入る。
- 3・レバノン国会「5・17 合意」破棄
- 6・* ファタハ、PFLP, DFLP, 共産党、パレスチナ解放戦線「アデン文書」
- 9・13イスラエル/シモン・ペレス首相(マハラハ・第21次)
9. 20米国大使館(ベイルート)に、ふたたび自爆攻撃。
- 11・22~29 第17回パレスチナ民族評議会(PNC)Palestine National Council, 17th Session

1985年

- 1・5~20 アラブ社会主義バース党-シリア地域第8回地域指導部大会
- 1・* イスラエル政府, ベイルート郊外からの一方的撤退を決定。
イスラエル軍に対する攻撃は占領の終了までに800回近く行なわれ、
その死者は400人を超える。イスラエル国民の10分の1が反戦デモに参加するなど、
占領はベトナム化の様相を呈する。
- 2・* PLO・ヨルダン「アンマン合意」
- 2・* PFLP 等「パレスチナ民族救国戦線」結成
- 2・* シーア派ゲリラ「ヒズブラー」政策綱領を発表。

レバノン問題を解決し、住民の平等・正義を保証し得るのは、イスラム共和国以外にはない。第一の目標は西側帝国主義と戦い、アメリカとフランスの施設を含めてレバノンから一掃することである。当面する中心課題はイスラエルとの たたかいである。安全保障地帯におけるたたかいだけでなく、イスラエル共和国の壊滅とイスラム支配の確立を目指す。

- 3・11ソ連共産党書記長ミハイル・ゴルバチョフ Mikhail Gorbachev
- 4・* イスラエル軍, レバノン南部からの撤退完了。
キリスト教徒の南レバノン軍3千が、イスラエル軍に代わり防衛にあたる。
- 5・* 岡本公三釈放—PFLP-GC、イスラエル捕虜交換(ジブリル協定・レバノン)
6. 14シーア派ゲリラ, アテネからローマに向かう大型旅客機を乗っ取る。
米国人乗客1人が殺され、39人が拘留される。
- 6・* パレスチナ民族救国戦線「ダマスカス合意」(アマル運動、レバノン国民戦線)
10. 1イスラエル軍, PLO 本部(チュニス)爆撃。
- 11・23~24PLO アブ・ニダル派 エジプト航空機 HJ
12. 27アブニダル派, ローマ, ウィーン空港を爆破。5人のアメリカ人を含む20人の人々を殺害。
- 85年第17回パレスチナ民族評議会(PNC アンマン)。会議ではパレスチナ救国戦線(PNLF)に非難が集中
- 85年第9回アラブ連盟首脳会議(カサブランカ)。

1986年

- 1・* 南イエメン内戦(イエメン社会党—イスマイル派 vs ムハマド前大統領派)~1・24 終結
- 2・8南イエメン最高人民会議—アル・アタス大統領・
- 4・* 米国第6艦隊, 国際テロを口実に, リビア首都トリポリ爆撃。
7. 29ブッシュ副大統領, エルサレム訪問。
イスラエル政府の仲介で, イラン政府の代理人アミラム・ニルと秘密に会談を持つ。
この会談についてブッシュは否定し続けたが, 90年5月にノースの日記が公開されたとき,
会談の事実を認めた。
- 9・5アブ・ニダル派 パンアメリカン航空機 HJ
9. 30アマル派民兵, 2万5千人が住むベイルート近郊のブルジバラジネ難民キャンプを半年にわたり包囲。
- 9・* イスラエルのデモナ核再処理工場の存在が暴露される。
10. 1アマル派民兵, 2万人が住むレバノン南部のラシディーエ難民キャンプを包囲。
パレスチナ人の子供を助けたユニセフの女性係官は70発の銃弾を浴び殺害される。

- 10・11 米国レーガン大統領・ソ連ゴルバチョフ大統領/レイキャビック会談「INF全廃条約」
- 10・20 イスラエル/イツハク・シャミール首相(リクード・第22次) Yitzhak Shamir
- 11. 3 レバノン新聞アルシラア, 米国がひそかに武器をイランに販売したと報道.
「イラン・コントラゲート事件」が発覚.
- 11. 29 アマル派民兵, ブルジバラジネ難民キャンプに毒ガス爆弾を打ち込む.
- 11・* PLO アラファト派, 南部マクドゥーシェ丘のアマル基地を占拠.
- 12. 12 アマル派民兵, シャティーラのパレスチナ難民キャンプに対する作戦を開始.
- 86年イスラエル政府, 東エルサレム在住のパレスチナ人がPLOと接触することを禁じる法律制定

1987年

- 2. 6 Bourj el-Barajneh Refugee Camp
- 2. 9 ブルジバラジネ難民キャンプで餓死者が出現.
- 2. 14 アマル, キャンプの包囲をいったん解く. 数日後にふたたび封鎖を開始.
- 3・30 ファタハ、PFLP、DFLP、PLF「トリポリ合意」(リビア)
- 4・20~25 第18回パレスチナ民族評議会 (PNC) Palestine National Council, 18th Session
— 党派間の和解
- 11・25 「グライダーの夜」(PFLP-GCによるハングライダーでの攻撃)
- 12. 8 ガザ地区で, パレスチナ人労働者の乗った車にイスラエル軍のタンクローリーが衝突.
パレスチナ人4人が死亡7人が重傷を負う.



12. 9 第1次パレスチナ・インティファダ The First Intifada

事故をきっかけに自然発生的なデモが始まる.
さらに抗議行動に参加した少女が射殺されたのをきっかけに,
イスラエルへの抵抗運動「インティファダ」がガザおよびヨルダン
川西岸両地区に拡大.
ラビ国防相は「石を投げる者の手足を折れ!」と命令.



12・14 ハマス(イスラーム抵抗運動 Hamas/Hamas Movement 結成 Ahmed Yassin/Abdel Aziz al-Rantisi

「ハマース」は「イスラーム抵抗運動」のアラビア語の頭文字をとったもの. エ
ジプトの「ムスリム同胞団のパレスチナ支部」として結成,
モスクの建設や礼拝の安寧を目標とする非政治組織.
87年レバノン南部でシーア派民兵組織「ヒズブッラー」が軍事 活動を強化.
ベカー高原北部のバールベック周辺に拠点を形成. アマルと対決.
指導者ハサン・ナス ラーラは元「アマル」司令官. その後部下を引き連れて

ヒズブッラーに参加した.

87年第10回アラブ連盟首脳会議(アンマン)

1988年



- 4・16 PLO カリル・ワズィール Khalil al-Wazir 副議長暗殺(チュニス)
モサドの暗殺部隊が, PLOの弱体化を図りおこなったといわれる. 後任アブ・イヤード.
- 5. 6 シリア派民兵アマルとヒズブッラー大規模戦闘(ベイルート南郊シーア派居住地区).
ハメネイ・イラン大統領とアサド・シリア大統領が協議,
当事者4者からなる停戦監視委員会 設置で合意.
- 5. 13 シリア軍, 西ベイルートでヒズブッラー民兵を攻撃.
- 5. 25 イスラエルと南レバノン軍(SLA), 安全保障地帯を出てヒズブッラー拠点包囲.
シリア軍とレバノン治安部隊がヒズブッラー拠点であるベイルート南郊シーア派居住地区占拠.

- 6・* 第11回アラブ連盟首脳会議(アルジェ)
- 7. 31 ヨルダン政府, ヨルダン川西岸地区の統治権放棄宣言.
- 8・20 イラン・イラク戦争停戦
- 9・1 リビア第19回革命記念日
- 11. 15 第19回パレスチナ民族評議会(PNC アルジェリア) Palestine National Council (19th Session)

, ヨルダンの統治権放棄を受け, 「パレスチナの地を領土とし, エルサレムを首都とする」独立国家を宣言.
同時にイスラエルの生存権を承認. これまでのテロ主体の戦術を放棄

11・* 米国政府, 国連のパレスチナ問題特別総会に出席予定のアラファトに対するビザ発給を拒否.
国連は総会会場をジュネーブに移して開催すると発表.

12. 13アラファト議長, 国連総会で演説.

「キッシンジャーの3条件」を受け入れ, テロ作戦を放棄しイスラエルの生存権を承認.

安保理決議 242 号及び 338 号を受諾表明. 他のゲリラ組織はイスラエルへの屈服として猛反対.

88年パレスチナ蜂起民族統一指導部結成 Unified National Leadership of the Uprising (UNLU)/ファタ
ハ・PFLP・PDFLP・パレスチナ共産党

88年アル=カイーダ設立(オサマ・ビンラディン/Al-Qaeda/Osama bin Laden)



1989年

1. 20アメリカ/ ジョージ・H・W・ブッシュ(父)大統領(共和党)George Herbert Walker Bush

1. 30アマルとヒズブラー, 停戦合意文書調印(ダマスカス)

2・15ソ連軍、アフガニスタンから撤兵完了

4. 2パレスチナ中央評議会 Palestinian Central Council (PCC) 、アラファトを初代パレスチナ国家主席選任。

6・3イラン・ホメイニ師死去

6・4中国「天安門事件」

7・28イラン、ラフサンジャーニ師大統領選出

9・* アフガニスタン「タリバン」政権樹立

10. 22レバノン内戦収拾会議(サウジアラビア・タイフ)

レバノン内戦収拾のための会議。「国民和解憲章(タイフ合意)」採択.

イスラム, キリスト両派の平等を図る政治改革を盛り込む.

10. 24レバノンフォース, タイフ合意にのっとして軍事部門を廃止.

11. 24レバノン・エリアス・ハラウイ大統領が就任.

タイフ合意に基づき各民兵組織にベイルート退去を命令. レバノン内戦が終結.

アウン将軍はなお武装解除に抵抗を続ける.



12・2~3マルタ会談 Malta Summit(ジョージ・H・W・ブッシュ/ミハイル・ゴルバチョフ)ー
「冷戦」終結

89年モサド, レバノン領内でハマースの指導者シェイク・アフメド・ヤシン拘束.

89年第12回アラブ連盟首脳会議(カサブランカ)

89年~91年東欧・ソ連解体 ソ連崩壊にともない, ユダヤ人が大量に移民.

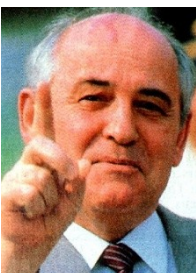
1990年湾岸戦争 Gulf War

5・22イエメン共和国 Republic of Yemen(南=イエメン人民民主共和国・北=イエメン・アラブ共和国合併)

Ali Abdullah Saleh 大統領

6・* PLF(パレスチナ解放戦線・アブル・アッバース), テルアビブ海岸への上陸作戦失敗.

6. 20米政府, PLO との対話を中止. アラファトが PLF の作戦を非難することを拒否したことが理由となる.



7・2~13ソ連共産党第28回大会(最終)/ミハイル・ゴルバチョフ Mikhail Gorbachev

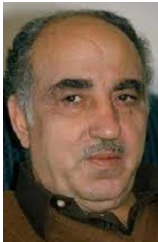
7・26石油輸出国機構緊急会議(クウェート原油価格2ドル引き上げに合意)

8・1ジッダ会談(イラク、クウェート)最終決裂

8. 2イラク軍、クウェート侵攻、8時間で全土制圧、「暫定政府」樹立宣言。~91年3-3 湾岸戦争

- 8・3アラブ連盟緊急外相会議(「クウェート侵攻以前の状態への復帰」決議、イエメン、ヨルダン決議保留)
- 8・17イラク「人質作戦」宣言(クウェート在住の外国人をバグダットに連行)
- 8・* イラクフセイン大統領、「クウェート・パレスチナ・リンカーン」論発言
- 9・1イラク「人質作戦」放棄、外国人人質670人出国
- 10. 13レバノン駐留シリア軍、アウン将軍のキリスト教徒民兵軍を攻撃。
アウン将軍は降伏しフランス大使館に亡命を求める。
- 10・*「嘆きの壁発砲事件」発生。イスラエル軍、東エルサレムのテンブル山で、
パレスチナ人 22 人を射殺。国連安保理はイスラエル非難決議を採択。
- 11・* インティファダの犠牲者は、死者900人、銃撃による負傷4万9000人、
打撲傷2万4000人、手足の骨折1万6000人、流産3500人(これは眉唾)、
催涙ガスの負傷者3300人で、投獄されたパレスチナ人は総数2万5000人にのぼる。
- 12・25国連総会「中東和平国際会議」開催決議
- 90年ヨルダン総選挙。「イスラーム同胞団」第3の政党(ハマース系)5人の閣僚を送り込む。
- 90年 米国、PLOとの直接対話を中断。
- 90年第13回アラブ連盟首脳会議(バグダード)

1991年



- 1. 14PLO幹部アブ・イヤードとアブー・フル Salah Khalaf (Abu Iyad) /Abu Hul 殺害(チュニス)される。
- 1・17多国籍軍「砂漠の嵐」作戦開始(対イラク)
- 2・22イラク軍、クウェート焦土作戦開始、150以上の油田炎上
- 2・27米国ブッシュ大統領、クウェート解放宣言。
- 3. 1 イスラエルのシャロン住宅相、「湾岸戦争終結後にヨルダン川西岸およびガザ占領地に1
万戸以上を建設。ゴラン高原のユダヤ人を倍増させる」入植計画を打ち出す。

- 3・6湾岸協力会議(6ヶ国)、反イラク9ヶ国「ダマスカス宣言」 アラブ平和維持軍設置
 - 5・22 「シリア・レバノン兄弟協力調整条約」締結。レバノンに対するシリアの宗主権が明文化される
 - 7・* シリア、中東和平国際会議への参加を発表。イスラエルとの交渉を是認する方向に動き出す。
 - 8・24ソ連共産党副書記長・書記長代行ウラジーミル・イワシコ Vladimir Ivashko
 - 9. 12ブッシュ大統領、イスラエルへの債務保証供与を拒否すると述べる。
中東和平国際会議の成功のため、イスラエル強硬派へのけん制を図ったもの。
 - 9・28 第20回パレスチナ民族評議会 Palestine National Council, 20th Session(アルジェ)
- 中東和平国際会議に関するすべての権限を PLO 執行部に一任する決議を、256対68で採択/PLO は執行部からアブル・アッパース PLF 議長を解任する/テルアビブ上陸作戦での米国の非難をかわすためとされる。



- 10. 30中東和平国際会議(マドリード)開催/Haidar Abdel-Shafi /Hanan Ashrawi
- 11・10ファタハ・ハマース合同声明
- 12・* 国連総会、1975年のシオニズム決議を撤廃。
- 12・* イスラエル=パレスチナ二国間交渉(ワシントン)開始



- 91年パレスチナ人民党—パレスチナ共産党の改称 Palestinian People's Party (PPP) /
Bashir Barghouti
 - 91年イスラエル政府、エルサレムからパレスチナ人を排除。西岸地区への入植地建設に着手。
 - 91年国連安保理、イスラエルのパレスチナ人追放を非難する決議を採択。
 - 91年湾岸戦争でイラクを支持した PLO に対し、湾岸諸国は報復措置。パレスチナ人を国外に
追放、財産やPLOへの税金を没収、PLOへの資金援助も打ち切る。
- これに代えスンニ派武闘組織「ハマース」への支援を強める。

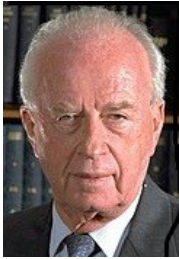
91年ハマース軍事部門「イズ・アディン・アル・カッサム隊」結成、エルサレムやテルアビブなどの爆弾攻撃開始

1992年

- 6. 23イスラエル総選挙 イスラエル・ラビン労働党勝利

PLOとの接触を合法化。ラビンがバチカンを公式訪問し、教皇と会見する。

6・* イラク国民会議発足(ウイーン) Iraqi National Congress (INC) /アフマド・チャラビーAhmed Chalabi



7・13イスラエル/イツハク・ラビン Yitzhak Rabin 首相(労働党・第25次)

12. 15ハマースがイスラエル国境警備隊員を誘拐・殺害する。

12. 17イスラエル政府、急進化したハマースに対する報復弾圧。

西岸地区のハマース活動家413人を南レバノンに追放する。

92年ヒズブッラー(レバノン)、総選挙初参加。14議席獲得。

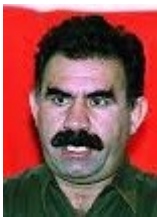
92年国連レバノン暫定軍(UNIFIL)、パレスチナ・ゲリラに襲われ兵士が死傷。

1993年

1・20アメリカ/ビル・クリントン大統領(民主党) William Jefferson Clinton

2・26世界貿易センター爆破事件 1993 World Trade Center bombing/Al-Qaeda

4・* イスラエル軍兵士200人、ガザのハマース支配地区を包囲。30世帯の家をロケット弾で完全に破壊。



6・8クルド人民会議 (KONGRA-GEL) /クルディスタン労働者党 Partiya Karkerên Kurdistan (PKK) アブドゥッラー・オジャラン Abdullah Öcalan

トルコ政府との「全面戦争」

7. 25イスラエル空軍、レバノン東部ベカー平原とレバノン南部で、「ヒズブッラー」とPFLP・GCの拠点十数カ所への攻撃。1週間の空爆で、レバノン側で120人死亡、500人が負傷。住民約25万人が難民化する。イスラエル側でも20数人が死傷。

ヒズブッラーは爆弾攻撃で報復。イスラエル兵7人が死亡する。

8・* イスラエル政府、PLOとの秘密会談で合意に達した、ガザ・エリコの先行自治を含む基本協定案を承認。



9・3PLO 執行委員会 反対派一在ダマスカス・パレスチナ10派形成

Alliance of Palestinian Forces/Damascus 10/①Hamas②Popular Front for the Liberation of Palestine (PFLP)③Democratic Front for the Liberation of Palestine (DFLP)④Islamic Jihad Movement in Palestine, better known in the West as Palestinian Islamic Jihad (PIJ)⑤Popular Front for the Liberation of Palestine – General Command (PFLP-GC)⑥as-Sa'iqa⑦Fatah al-Intifada⑧Palestinian Liberation Front (PLF, Abu Nidal Ashqar faction)⑨Palestinian Popular Struggle

Front (PPSF, Khalid 'Abd al-Majid faction)

⑩Palestinian Revolutionary Communist Party (PRCP)

9. 13 「オスロ合意」イスラエルとPLOが、パレスチナの暫定自治に関する協定調印。

パレスチナ自治に関する原則宣言が発表される。イスラエル軍は12月13日を期限として、ヨルダン川西岸およびガザ両地区からの撤退を承認。

原則宣言の骨子

(1)イスラエルとパレスチナは相互の存在を承認する。(2)イスラエル軍は67年に占領した領土から段階的に撤退する。(3)選挙によってパレスチナ自治政府を樹立する。(4)その後、パレスチナの最終的地位に関する交渉を行う。

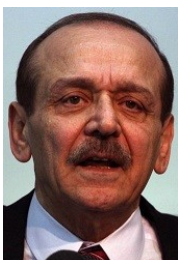
9. 28イラン・ペラヤチ外相、イスラエルとPLOの暫定自治合意を批判。

ハマース、ヒズブッラーなどイスラム主義組織を支援していくと声明。

12・* イスラエル軍、ヨルダン川西岸とガザ地区からの撤退開始を延期すると発表。

ハマースやイスラミック・ジハードは自治構想に反対し、PLOに対する武力攻撃を開始。

93年民主主義と労働者の権利センター結成 Democracy and Workers' Rights Center (DWRC)



93年パレスチナ民主連合(Palestinian Democratic Union FIDA) —結成
～DFLP分派(アブドラボ派) Yasser Abed Rabbo

第2部



1994年



- 2. 25ヘブロンユダヤ人入植者医師バールーフ・ゴールドシュテイン Barukh Goldshteyn] アブラハムモスクに集まったパレスチナ人に向け銃を乱射。29人死亡
- 4・*オスロ合意「経済関係に関する議定書」(パリ議定書)調印
- 5・4イエメン内戦/Yemeni Civil War (1994)イエメン共和国 Republic of Yemen VS イエメン民主共和国 Democratic Republic of Yemen
- 5・4「ガザ・エリコ先行自治協定」(カイロ合意) - パレスチナ暫定自治政府発足 PLO・イスラエル「ガザ地区とエリコ地区に関する合意」

5・4 ガザ・PLO 本部設置.



- 7・1 PLOアラファト議長、ガザ帰還(チュニジア)は熱狂的歓迎
- 7・25 ヨルダン、イスラエル戦争終結宣言
- 9・23イエメン大統領選挙/アリー・アブドゥラー・サーレハ大統領 Ali Abdullah Saleh
- 10・9ハマース、エルサレム「殉教」作戦 15人死亡
- 10・11ハマース、イスラエル兵誘拐
- 10・13パレスチナ自治政府(PA)、ハマース約200人逮捕(PA・ハマース対立激化)
- 10. 26 ヨルダン・イスラエル「平和条約」締結. モロッコとチュニジアがテルアビブに利益代表部を設置.

10. 26アラファト議長、イスラエルのラビン首相、ペレス外相がノーベル平和賞を受賞.

11・1 中東アフリカ経済サミット(モロッコ・カサブランカ)



94年パレスチナ予防治安部隊(PSF)設立//パレスチナ自治政府/
モハメド・ダーラン Mohammed Dahlan

1995年

- 2・21 PLO 執行委員会(カイロ)
- 8・15 PLO 執行委員会(チュニス)
- 8・21 ハマス/エルサレム市バス「殉教」作戦、6人死亡、100人以上負傷
- 9・18 村山首相、ガザ訪問
- 9・28 パレスチナ自治政府(PA)発足、代表者にアラファト議長選出
クリントン米国大統領は混乱を憂慮し、独立宣言を延期するように要請。
- 9・24 「オスロ合意Ⅱ」西岸地区とガザ回廊に関する暫定合意成立。
ジェリコ以外の西岸六地区にも自治区が拡大される。
- 9・28 「オスロ合意Ⅱ」調印式(ワシントン)
- 10・10 イスラエル・クネセト、パレスチナ政治犯約900人釈放
- 10・26 イスラーム聖戦機構のファティ・シャカキ Fathi Shaqaqi 司令官暗殺される。
- 11・4 ラビン・イスラエル首相、
シオニスト極右派イーガル・アミルにより暗殺(オスロ合意記念集会/テルアビブ)
- 11・4 イスラエル/シモン・ペレス Shimon Peres [首相(労働党・第25次)]



1996年



- 1・20 パレスチナ自治政府(PA)総選挙、アラファト議長大統領当選(87.3%支持)。
PFLP, ハマスらはこの選挙をボイコット。PLO 事務局長サエブ・アリカット Saeb Erekat
- 1・* ハマス軍事組織「イズ・アディン・アル・カッサム隊」行動隊長ヤヒヤ・アヤシュ Yahya Ayash
モサドにより暗殺される。アヤシュはコードネーム『エンジニア』と呼ばれ、爆弾作りの専門家だった。
- 2・8 自衛隊、ゴラン高原PKO参加のため中東に到着。
2・* ハマス/新たな武装組織「ヤヒヤ・アヤシュの門下生」を編成。
エルサレムとテルアビブの市街地で、爆弾を体に巻き付けた連続自爆攻撃敢行。計60人が死亡する。
- 4・11 イスラエル軍、「怒りのぶどう作戦」開始。(レバノン南部のヒズブツラーに対し、
作戦は2週間にわたる。これによりレバノン民間人150人以上が殺害され、350人以上が負傷。
- 4・18 第1次カナ虐殺事件イスラエル軍、レバノンのカナ国連キャンプを爆撃(カナ虐殺事件)。
- 4・22~25 第21回パレスチナ民族評議会(PNC) Palestine National Council, 21st Session
(Gaza)「民族憲章」からイスラエル敵視条項削除提案
- 4・26 「怒りのぶどう作戦」、アメリカの仲裁で停戦。イスラエルはさしたる戦果もなく安全保障地帯まで後退。
- 5・5 パレスチナ最終地位交渉開始



- 6・18 イスラエル総選挙/ベンヤミン・ネタニヤフ首相 Benjamin Netanyahu
(リクード・第27次)
- 9・25 イスラエル地下トンネル開設強行(エルサレム旧市街)、抗議したパレスチナ人に無差別発砲
- 11・1 TV「アルジャジーラ」開設(カタール)



- 96年ハマース政治局議長ハーレド・マシャル Khaled Mashal
- 96年第18回アラブ連盟首脳会議(カイロ)

1997年

1. 15「ヘブロン合意」(イスラエル・パレスチナ自治政府)成立.

Protocol Concerning the Redeployment in Hebron イスラエル軍はヘブロンから撤退



2・15「日本赤軍」5名等 30 数人拘束(レバノン)

3. 18イスラエル, 自治領ヘブロンに再展開. 東エルサレムの入植地「ハー ル・ホマ」建設を強行.

和平交渉中断.

5・23イラン大統領選挙—モハンマド・ハータミー選出 Mohammad Khatami

8. 4ハマース連続爆弾攻撃/エルサレム/犯人を含む8人が死亡、200人近くが負傷する。

10・* モサドがヨルダンでハマース幹部暗殺を図るが失敗。工作員がしヨルダン政府に拘束される。

イスラエルは人質交換のためヤシン師らパレスチナ人政治犯20人を釈放する。

11・17「ルクソール事件」Luxor massacre /アル・ジャマー・アル・イスラミーヤ al-Jamā'ah al-islāmīyah

エジプト観光地ルクソールで、日本人観光客等大量殺害/イスラーム集団

12・* ハマース創立10周年集会(ガザ)

1998年

2・26イラク・フセイン/アナン国連事務総長会談(核視察合意)

3・* ハマース幹部爆死(モサドの仕掛けた爆弾)。ハマースが報復宣言。

8・7アメリカ大使館(タンザニア首都ダルエスサラーム)爆破、アメリカ大使館(ケニア首都ナイロビ)爆破
イスラーム聖戦機構

10. 23 「ワイ・リバー覚書」成立(イスラエル・パレスチナ自治政府) Wye River Memorandum

イスラエル軍はヘブロン撤退に続き、さらに13%, ヨルダン川西岸地域から追加撤退することとなる。

パレスチナは過激派への統制を約束。

11・2 パレスチナ国際空港開港(ガザ)

12・14 第 22 回パレスチナ民族評議会(PNC) Gaza)

12・16米英軍「砂漠のキツネ作戦」開始、イラク爆撃 Desert fox strategy

1999年

2. 7 ヨルダン・フセイン Hussein of Jordan 国王死亡. PLOは予定していた独立宣言延期.



5・17 イスラエル総選挙. エフド・バラク Ehud Barak (労働党) 大勝

敗れたネタニヤフはリクード党内でも支持を失い、シャロンが党首に返り咲く

6・6 イスラエル/エフド・バラック首相(労働党・第28次)

9・4 「シャルム・エル・シェイク覚書」(修正ワイ・リバー合意) 調印.

西岸地域からの追加撤退を決める

10・29イラク国民会議総会(ニューヨーク)INC議長アフマド・チャラビー独裁体制批判。

10・* ガザと西岸地区を結ぶ連絡道路開通.

12. 17国連安保理, 決議1284号を採択.

UNSCOMに代わる新たな査察機関として国連監視検証査察委員会(UNMOVIC)を設置.

2000年

4・* ハバシュ, PFLP 議長を辞任.



5・* PFLP 第6回大会 第2代議長アブー・アリー・ムスタファー Abu Ali Mustafa

5. 22バラク・イスラエル首相, レバノンからの一方的撤退を実施. 自治政府との最終地位交渉に着手. 一方で, パレスチナの占領地への入植をかつてないペースで進める.

6. 10ハーフイズ・アル=アサド Hafez al-Assad シリア大統領死去.

6・17~21 アラブ社会主義バース党-シリア地域第9回地域指導部大会

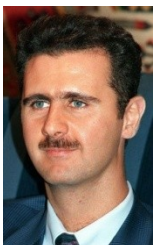
6・* シャロンが「ハラム・アッシャリフ」訪問を強行.

7. 11キャンプ・デーヴィッド交渉(PLO・イスラエル)「パレスチナの最終的地位に関する交渉」は、ヨルダン川西岸地域へのユダヤ人入植問題、

東エルサレム返還にイスラエル応じず、決裂.

7・17 バーシャル・アサド Bashar al-Assad シリア大統領就任

9・28 リクード党首シャロン, 数百人の兵士と警察の護衛のもと、「ハラム・アル・シャリーフ」(神殿の丘)を強行訪問. エルサレム旧市街地に対するイスラエルの主権をアピール(ハラム・アル・シ



ヤリーフはイスラーム第3の聖地でありアル・アクサ・モスクが建つ)。イスラエル「10月事件」

9・28 アル・アクサー・インティファダー (第二次インティファダー)

シャロンのアル・アクサ侵入に 抗議する第二次インティファダー発生/

イスラエル軍は 30 人殺人、500 人負傷させる。これにより和平交渉は無期限に中断。

10・* ファタハ軍事組織「アル・アクサ殉教者旅団」Fatah Tanzim 結成

10・* パレスチナ問題サミット開催(クリントン米国大統領の主催)/ミッチェル委員会成立。

2001 年

1. 20アメリカ/ジョージ・W・ブッシュ(子)大統領(共和党)George Walker Bush

1・21イスラエル・PLO「タバ協議」(バラクの敗北により流産)

タバ協議の内容

イスラエルは、ヨルダン川西岸地域の 94%を返還、残りの6%については代替地の提供を提案した。さらに難民の窮状の迅速な解決に向けた道義的な責務を有する」ことを認める。PLO は 370 万人のパレスチナ難民の帰還要求の一部実現の上でを放棄を検討

2. 7イスラエル治安部隊とパレスチナ人衝突(エルサレム旧市街), 6人死亡, 200人負傷。



3・7イスラエル/アリエル・シャロン首相 Ariel Sharon (リクード・第29次)/エフード・バラック(労働党)敗北

3・27~28第14回アラブ連盟首脳会議(アンマン)

5・* ハマース「殉教」作戦開始。

5・* ミッチェル委員会, 「イスラエルおよびパレスチナにおける暴力について」報告発表。

6. 1ハマース「殉教」作戦(テルアビブのディスコ). 21 人が死亡。

8. 27シャロン・イスラエル政府, ヨルダン川西岸地区でパレスチナへの挑発作戦を開始。

8・27 PFLP 第2代議長アブ・アリ・ムスタファー武装ヘリ攻撃・暗殺。



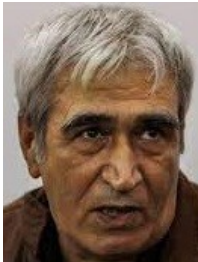
9. 11 アルカイダ アメリカ同時多発「殉教」作戦(テロ)

10・* PFLP 第3代議長アフマド・サアダート/Ahmad Sa'adat 就任

10・17PFLP, ムスタファ議長暗殺への報復として極右政党国民連盟の党首ゼエヴィ観光相を、エルサレム市内のホテルで暗殺。イスラエル軍はただちに「復讐」作戦を開始。自治区各地を再占領。

12. 4イスラエル, 自治政府を「テロ支援勢力」と規定。

アラファト議長を議長府(ラマラ)に軟禁。シャロン・イスラエル首相、交渉再開に「7日間の平穩」「6週間の冷却期間」要求



2002 年

1・* パレスチナ自治政府治安当局, PFLP サアダート第3代議長逮捕・収監。

2・16ハマース、新型地对地ロケット「カッサム2号」攻撃

3. 27ハマース「殉教」作戦(イスラエル・ネタニアのホテル)。死者29名を出す。イスラエル世論は一気に硬化。

3・27~28第15回アラブ連盟首脳会議(バイルート)サウジアラビア・アブドラ皇太子「和平提案」を「アラブ中東和平案」として採択

3. 29イスラエル軍, ガザ、西岸地区のパレスチナ自治区に対する「防御の盾」攻撃作戦開始。

3・* アラブ連盟、中東包括和平構想採択。「アラブ和平案」



4. 1「ジェニンの虐殺」 Battle of Jenin イスラエル軍, アラファトの執務するラマラの自治政府議長府を包囲。攻撃を加える。ジェニンのパレスチナ人難民キャンプでは数百人が虐殺される。

4. 2パレスチナ人決死隊200人、ベツレヘム聖誕教会占拠。

イスラエル軍は教会を包囲し、立てこもった人々に対し兵糧攻め。亡命の保障で合意。

5. 2イスラエル軍、大規模軍事作戦「防御の盾」終結。1ヶ月ぶりに議長府包囲を解く。

米国は、自治政府の機構改革をテコに和平を復活させる試みを開始。

6. 3パレスチナ最高裁、治安当局に対しサアダート PFLP 議長の釈放命令。

当局は判決を無視し収監を続行。

6. 4ジョージ・テネット George Tenet 米国CIA長官・アラファトPLO議長会談(ラマラ)。

自治政府独自の改革方針を討議。アラファトは、テロ防止を目ざす治安組織の改革を約束。

6. 5「イスラーム聖戦機構」Islamic Jihad Movement in Palestine

「殉教」作戦(イスラエル北部メギド)路線バスの後ろを走っていた乗用車が爆発。バスは全焼しイスラエル兵13人、民間人4人が犠牲になる。イスラエル軍は犯人が住んでいたとされる西岸ジェニンに戦車部隊を送り込む。

6. 5パレスチナ自治政府、「イスラーム聖戦機構」を徹底的に取り締まると宣言。

6. 6イスラエル軍、「テロに関するパレスチナ自治政府の直接的な責任を示すため」、

戦車50台で自治政府議長府への攻撃を再開。ブッシュ米大統領との首脳会談に配慮し、まもなく包囲を解除。

6. 10イスラエル軍、三度議長府包囲に入る。

6. 10ブッシュ・シャロン会談、ブッシュ米大統領は「イスラエルには自衛の権利がある」と述べ、

自爆テロへの報復を支持。ロシア、国連、欧州連合(EU)などが提起した中東和平国際会議についても否定。



6. 11イスラエル軍(ラマラ)、アブデル・ラヒム・マルーAbdel Rahim Mallouh 逮捕(PLO執行委員/PFLP副議長/議長代行)

6. 11ヘブロン近郊のユダヤ人入植地キリヤット・アルパで、スクールバスが爆発に巻き込まれ、イスラエル人3人負傷。

6. 11自爆攻撃(テルアビブ近郊ヘルツェリア)、近くにいた15歳の少女死亡、9人負傷/自治政府は、一般市民を狙った犯行は「パレスチナ人への攻撃を続けるイスラエル政府の思うつぼだ」と声明。

6. 12イスラエル、議長府で続けていた包囲を解除。

6. 16イスラエル、パレスチナ自治区を孤立化させる「分離壁」建設開始。Israeli West Bank barrier



6.17 パレスチナ民族イニシアティブ Palestinian National Initiative(PNI)設立

Mustafa Barghouti

6. 18ハマース「殉教」作戦(エルサレム南部路線バス)。イスラエル人ら19人死亡、50人以上負傷。自治政府は市民を殺害する攻撃を非難し、「決して容赦しない」と言明。

6. 18イスラエル軍、ジェニンとナブルスに侵攻。

6. 19アル アクサ殉教者団「殉教」作戦(エルサレム北東部バス停)

イスラエル軍、同夜ガザのパレスチナ自治区を武装ヘリでミサイル攻撃。

カルキリヤでは、家宅捜索を進めていたイスラエル兵 がパレスチナ人と銃撃戦になり、兵士2人死亡、4人負傷、パレスチナ人1人死亡。

6. 20イスラエル軍、ジェニンなどで「外出禁止令」。約2000人のパレスチナ人拘束、うち約1000人を留置。

6. 20アラファト議長、ラジオや新聞で改めて「完全な攻撃停止」を呼び掛ける。

民間世論調査では、パレスチナ人の約68%が自爆攻撃支持。

6. 20PFLP(ナブルス近郊ユダヤ人入植地イタマル)で、武装攻撃

6. 21イスラエル軍戦車が、群衆に砲撃(ジェニン市街)

子供3人を含むパレスチナ人市民4人死亡、約20人負傷。

6. 24パレスチナ自治政府、ハマース指導者ヤースイーン(Yassin)師を自宅軟禁(ガザ)。

当局は「パレスチナ人の利益を守るため、アラファト議長が決定した」と語る。

6. 22イスラエル軍、「決断の道」作戦開始。

ラマラ議長府の建物を戦車などで包囲、ジェニン、ナブルス、トゥルカルム、カルキリヤ、ベツレヘム、ラマラの西岸主要6都市を制圧。「軍事閉鎖区域」に指定し、報道陣の立ち入りを禁じる。またガザ南部のラファで、ハマース軍事部門幹部をミサイル攻撃し、6人殺害

- 6. 24アラファト議長,「自治政府や和平を破壊しようというイスラエルの真の意図が暴かれた. どんなに犠牲者が出ようと、パレスチナ人は屈しない」と述べ、対決姿勢を鮮明にする.
- 6. 24ブッシュ米国大統領,「**新中東和平構想**」発表. アラファト現体制を拒否, 排除の姿勢を明らかにする.

和平構想骨子

今日のパレスチナ指導部はテロを奨励している。米国はパレスチナ指導部がテロと戦わないうちは国家の創設を支持しない。そしてテロに妥協しない新しい指導者の選出を求める。米国は新指導部の下でのパレスチナ暫定国家の建設を支持する。複数政党制による地方選挙と、その後の総選挙を支援する。イスラエルに対し、00年9月28日以前の位置まで撤兵するよう求める。占領地での入植活動も停止すべきである。

6. 25ソラナ共通外交・安全保障上級代表(EU), ブッシュ米国大統領構想評論

「我々は今後も選ばれた指導部を相手にしていく」と述べる。
フランスのドビルパン外相は「指導者を決めることができるのはパレスチナ人だけだ」と語る。
これに対しイギリスのブレア首相は、「必 要な行動(自爆テロの阻止)を取れる指導者と交渉する方が和平推進につながる」と発言。ブッシュに理解を示す。

8. 18アブ・ニダル死去(アルファタ派の分派—ファタハ革命評議会派)

- 9. 19イスラエル軍, アラファト議長を再度軟禁.
- 11. 5イスラエル・シャロン首相, イラクの次にはイランを攻撃すべきと発言.
- 12. 6イスラエル, ガザ地区を戦車と武装ヘリで攻撃.
- 12. 25イスラエル, 「イラクがシリアに生物・化学兵器を移送中」発表. シリアは全面的否定.

2003年 Iraq War

- 1. 5連続「殉教」作戦(テルアビブ). 23人死亡.
- 1. 5イスラエル, 世界最高精度の迎撃ミサイル「アロー」発射実験成功.
- 1・* **パレスチナ中央評議会(PCC・ラマッラー)**
- 1・14パレスチナ会議(イギリス)米国・EU・ロシア・国連・サウジアラビア・ヨルダン・エジプト
- 1. 19米国, イスラエル, イスラエル南部でイラクのミサイル攻撃を想定した訓練開始.
- 2・* **アラファト**, 政権内に首相ポストを作ることに合意.
- 3・1第14回アラブ連盟首脳会議(シャルムエルシェイク)
- 3・10 **パレスチナ立法評議会(PLC) アッバース首相選出**
- 3・19~5・1 **米英軍, イラク占領(イラク戦争) Iraq War**



- 4. 30パレスチナ自治政府/マフムード・アッバース Mahmoud Abbas 首相 (ファタハ・PLO 事務局長)
- 4・30「**中東和平ロードマップ**」Road Map to Peace (A performance-based roadmap to a permanent two-state solution to the Israeli-Palestinian conflict) (カルテット=米国・EU・ロシア・国連)
- 6. 4米国・イスラエル・パレスチナ三首脳会談. (ヨルダン・アカバ)イスラエル・パレスチナの二国共存合意.

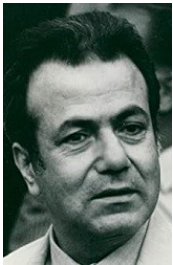
- 6. 11「殉教」作戦(エルサレムでバス攻撃). 17人死亡.
イスラエルはパレスチナのガザ自治区でハマース幹部殺害.
- 6. 29ハマース, イスラーム聖戦機構—3ヶ月間の対イスラエル停戦発表.
- 7・* **イスラエル**, パレスチナ西岸地区「分離壁」第1期建設完了
- 8. 21イスラエル軍, ガザでハマース政治部門最高幹部暗殺.
- 8. 22ハマース, イスラーム聖戦機構—停戦破棄.
- 9. 6ハマースの精神的指導者ヤスーン(Yassin)師が, イスラエル軍の攻撃を受け負傷. 拘束
- 10. 4「殉教」作戦(ハイファのレストラン). 18人死亡.



- 11. 12 アラファト, アッバース首相辞任させ, アーメド・クライ Ahmed Qurei を後継首相(2代目)指名. パレスチナ非常事態宣言

2004 年

- 2. 23国際司法裁判所で、分離壁をめぐる裁判開始
 - 2・28アフリカ連合臨時首脳会議(AU・シリア)/カダフィ「アフリカ共通通貨」構想/gold dinar
 - 3. 14「殉教」作戦(イスラエル南部アシュドト港). 13人が死亡.
 - 3. 16イスラエル軍、ヘリコプターでガザの民家を攻撃. 4人死亡.
 - 3. 22イスラエル軍、ハマースの精神的指導者ヤースイーン(Yassin)師暗殺.
 - 3・25イギリス・ブレア首相/リビア・カダフィ大佐会談(リビア)「歴史的和解」
 - 5・22~23第16回アラブ連盟首脳会議(チュニス)
 - 9・* 米国、アラファト排除の姿勢鮮明化。ブッシュが世界の国々にアラファトとの絶縁を呼びかける。
 - 9・* パウエル国務長官は「アラファトの権力を剥奪すれば、パレスチナ和平は進展する」と述べ、アラファトの強制排除の可能性を示唆。
 - 10・ イラク=アルカイダ設立(アブムサブ・ザルカーウィー)
 - 10. 29 PLO 第4代議長マフムード・アッバース/Mahmoud Abbas
 - 11. 11ヤーセル・アラファート(PLO議長・大統領)死去(パリ)その後アラファトの妻が毒殺説を主張。
- 04年 Federation of Independent & Democratic Trade Unions & Workers' Committees in Palestine



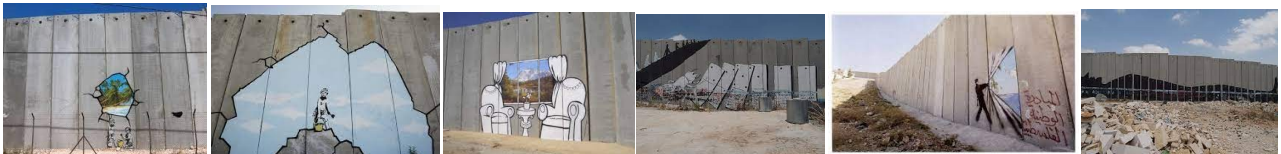
04 年ファタハ議長/Faruq al-Qaddumi

2005 年

- 1・9自治政府議長選挙 マフムード・アッバース前首相当選。
- 2・8シャロン・イスラエル首相・アッバース会談(エジプト・シャルムエルシェイク)

イスラエルは、拘束者の一部を釈放し、暗殺テロ工作を停止、西岸の都市の治安維持の一部をパレスチナ側に譲渡した。アッバースは急進派を説得して攻撃を抑制させた。

- 3・15「カイロ合意」(パレスチナ解放勢力)PLC選挙、PLO改革、ハマースのPLO加入決定
Palestinian Cairo Declaration 19 March 2005 by thirteen Palestinian factions, including
①Fatah, ②Hamass, ③Islamic Jihad, ④PFLP ⑤DFLP ⑥FIDA ⑦ALF ⑧PFF ⑨PPSF ⑩PPP
⑪PFLP-GC ⑫Sa'iqa, Thunderbolt ⑬PRF —13 Palestinian group
- 3・22~23第17回アラブ連盟首脳会議(アルジェ)
- 4・25シリア軍、レバノン撤退(29年間駐留)
- 6・6~9アラブ社会主義バース党-シリア地域第10回地域大会



- 8・* バンクシーBanksy (United Kingdom) 西岸地区「分離壁」に9枚の壁画
- 9・12イスラエル軍、ガザ地区撤退(1967年第3次中東戦争以来38年間の占領終了)
- 11月ファタハ・イスラーム Fatah al-Islam一結成
(ファタハ蜂起派一分派/シャーキル・アル=アブシー/Shaker al-Absi)

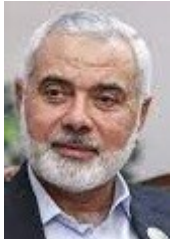


2006 年

- 1・25パレスチナ立法評議会(PLC)選挙。ハマース勝利。

2・22 イラク＝アルカイダ、シーア派聖地モスク爆破(イラク・サーマツラ)
～シーア派スンニ派の宗派戦争激化、拡大

3・28～30第18回アラブ連盟首脳会議(ハルツーム)



3・29ハマース・暫定自治政府(イスマーイーール・ハニーヤ Ismail Haniyeh)内閣成立

4・14イスラエル/エフド・オルメルト Ehud Olmert 首相(カディマ・第30次)

6・8 アブムサブ・ザルカーウィー(イラク＝アルカイダ)米軍の空爆、死亡

6・27アッバース議長/ハマース・ハニーヤ首相、1967年の国連停戦決議に基づく国境線合意

7・12～10・1 イスラエル軍、ガザ侵攻(対ハマース)夏の雨作戦 Operation Summer Rains

10・15「イラク・イスラム国」(ISI)創設

12・19イスラエル・オルメルト首相「オルメルト中東和平案」(オルメルト/ヨルダン国王・フセイン会談)

12・30 サダーム・フセイン(イラク)死刑執行

2007年

3・17 ハマース・ファタハ自治政府「挙国一致内閣」

3・27～28第19回アラブ連盟首脳会議(リヤド)

6・* ハマース・ファタハ抗争が戦闘に発展。ハマースがガザ地区武力制圧 Hamas control of Gaza

6・14 アッバース大統領、自治区全域「非常事態宣言」



6・17パレスチナ自治政府/サラーム・ファイヤード暫定首相 Salam Fayyad(ファタハ)

9・25ハイデル・アビデルシャフィ Haidar Abdel Shafi, (PLO) 死去(享年88歳)

11・27中東 和平国際会議/Annapolis summit(米国・アナポリス)

07年 Federation of Independent & Democratic Trade Unions & Workers' Committees in Palestine

2008年

1・26 ジョルジュ・ハバシュ(PFLP初代書記長)死去

1・* エジプト、ガザ問題解決のための協議にハマースとファタハを招請。

3・29～30第20回アラブ連盟首脳会議(ダマスカス)

12・27～09年1・27 イスラエル軍、ガザ地区侵攻(対ハマース)Gaza War (2008–2009)。和平交渉中断。

2009年



1・15 パレスチナ自治政府議長アジズ・ドウェイク Aziz Dweik

1・20アメリカ/バラク・オバマ大統領(民主党)Barack Hussein Obama II

1. 21イスラエル軍、ガザ地区撤退。

1. 26カイロ会合(ハマース・ファタハ)

2. 26第1回民族対話 Palestinian dialogue (カイロ)で、ハマース・ファタハ連立政権樹立合意。

3・28～30第21回アラブ連盟首脳会議(ドーハ)



3・31イスラエル/ベンジャミン・ネタニヤフ Benjamin Netanyahu 首相(リクード・第32次)

4. 2ファタハ、ハマースとの連立協議を延期すると表明。

6・* オバマ米国大統領演説(カイロ)。

イスラエルに対し入植地拡大中止を呼びかけるとともに、パレスチナ国家樹立による「二国家共存」支持表明。

8・4ファタハ第6回総会



8・12 パレスチナ人民闘争戦線(PRSF)事務総長 Ahmed Majdalani

10. 16エジプト当局、和解合意調印の延期発表。

10. 23アッバース議長、10年1月に選挙実施発表。

2010年

3・27～28第22回アラブ連盟首脳会議(スルト)

5・*イスラエル・パレスチナ間交渉開始(米国仲介)

7・*オバマ米国大統領/イスラエル・ネタニヤフ首相会談(直接和平交渉開始要求)

8・*クリントン米国国務長官、直接交渉に関する合意実現の為、9月にワシントン会議開催表明。

9. 2イスラエル・パレスチナ自治政府/直接和平交渉開始(アメリカ)

10・*アッバース議長、イスラエルの入植地拡大理由に、事実上の直接交渉打ち切り表明。

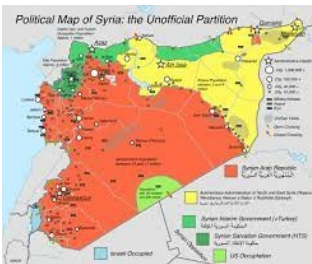
12・10 ジャスミン革命(チュニジア)ー「アラブの春」開始/Jasmine Revolution/Tunisian Revolution



2011年「アラブの春」 arab spring

1・25 エジプト反政府デモ激化ー2月11日ムバラク政府終焉 Egyptian revolution of 2011

2・15～25 リビア内戦ーカダフィー政権崩壊(2月17日革命)



3・15～2022年シリア内戦開始 Syrian civil war

4・*国連ロバート・セリー中東和平プロセス特別調整官、自治政府によるパレスチナ国家統治の準備が整っているとした報告書発表。

5・*アラブ連盟中東和平プロセス委員会、

9・*国連総会が、パレスチナ独立国家を正式加盟国として承認するよう要請決定。

9・*アッバース自治政府議長、国連の正式加盟を申請すると表明。

10・20 リビア/ムアンマル・アル=カッザーフィー殺害(リビア・スルト)

12・18 米軍、イラク撤退完了

2012年

3・27～29第23回アラブ連盟首脳会議(バグダード)



8・*エジプト/ムハマド・ムルシー大統領 Mohamed Morsi・ヒシャーム・カンディール首相 Hesham Qandil/Freedom and Justice Party (Egypt)

12・イラク、反政府デモ拡大(スンニ派地域)

12・15 民族連合戦闘部隊結成 National Union Battalion(ハマース、ファタハ、イスラム聖戦、PFLP) 第3次インティファダ宣言

2013年

1・4ファタハ創立48周年記念集会(ガザ)10万人参加

1・*ペレス・イスラエル大統領、イスラエルがアラファト暗殺に関与示唆。

「アラファト議長とは、まだ協力の余地があったがゆえに、彼は暗殺されるべきではなかった。アラファト氏亡き後、事態はさらに複雑化している」と語る。

3・21～27第24回アラブ連盟首脳会議(ドーハ)

4・*「イラクとシリアのイスラム国」設立(ISIL) Islamic State in Iraq and the Levant (ISIL)



6・6パレスチナ自治政府(PA)/ラーミー・ハムダッラー首相 Rami Hamdallah (ファタハ)

7・3 エジプト「9月3日クーデター」2013 Egyptian coup d'état/Abdel Fattah el-Sisi

2014年

3・25～26 第25回アラブ連盟首脳会議(クウウト)

4・15～2020年 10・22 第2次リビア内戦(トリポリ政府 VS トブルク政府)



6・29「イスラム国」(IS)設立 Abu Bakr al-Baghdadi

7・8 イスラエル軍、ガザ侵攻(ガザ戦争)2014 Israel-Gaza conflict—8・26 停戦

8・7 米国・有志連合「生来の決意作戦」Operation Inherent Resolve (対イスラム国)



8・28 トルコ/レジェップ・タイイップ・エルドアン Recep Tayyip Erdoğan 大統領就任(第12代)

2015年

1・25 ～2・1 イスラム国、日本人人質、殺害

1・22 イエメン内戦 Yemeni Civil War (2015–present)

3・28～29 第26回アラブ連盟首脳会議(シャルムエルシェイク)

7・14 イラン/米・英・仏・独・日・中=6カ国、「イラン核合意」(ウィーン)

10・20 37th World Zionist Congress

11・13～14 パリ同時多発テロ(イスラム国)

2016年

1・3 サウジアラビア、イランと国交断絶

7・20 第27回アラブ連盟首脳会議(ヌアクショット)



10・10 民主連合リスト The Democratic Alliance List 結成((PFLP、DFLP、PPP、Fida、PNI)/Mustafa Barghouti)

11・29～12・4 ファタハ第7回総会(アッバス議長再選)

「アッバース議長は、米国のトランプ次期大統領に公平な解決策を示すよう要請したほか、内政では、ハマースに対して暫定的な連立政権の樹立を呼びかけている」

12・14 49th anniversary of foundation of PFLP in Rafah, Gaza

2017年

1・9～18 モスクワ会談(ファタハ・ハマース「モスクワ合意」)

1・20 アメリカ/ドナルド・トランプ大統領(共和党) Donald John Trump



2・13 ハマースガザ地区首長ヤヒヤ・シンワール yahya sinwar

2・27 48th anniversary of the founding of the Democratic Front for the Liberation of Palestine (DFLP) in Jabalia Camp

3・23～29 第28回アラブ連盟首脳会議(アンマン)

5・1 ハマース「新憲章」発表 政治最高責任者・政治局長はハーリド・マシャアルからイスマイル・ハニーヤ -元首相に交代

5・* パレスチナ立法評議会地方選挙(西岸地区)

5・14 アラブ社会主義バース党第14回民族大会(ダマスカス)/創設指導者ハーフィズ・アサド大会

6・5 サウジアラビア・UAE・バーレーン・エジプト4カ国、カタール経済封鎖(13項目要求)

7・ 米軍・有志連合による、イラクのイスラム国首都モスル陥落

9・* ファタハ・ハマース「パレスチナ自治政府(PA)統一政府」の合意

- 10・17 米軍・シリア民主軍(SDF)による、シリアのイスラム国首都ラッカ陥落
- 10・12 ファタハ・ハマース「和解協議会」合意
- 11・21～23 パレスチナ民族議会(カイロ)ファタハ、ハマース、PFLP
- 12・6 米国、エルサレムをイスラエルの首都認定宣言

2018年

- 1・14 PLO中央委員会(ラマツラー)
- 3・30～2019年パレスチナ(ガザ)帰還の一大行進 Great March of Return/ 2018–2019 Gaza border protests
- 4・15 第29回アラブ連盟首脳会議(ダーラン)
- 4・30 第23回パレスチナ民族評議会(PNC ラマツラー)
- 5・ 米国、駐イスラエル大使館、エルサレムに移転
- 5・1 アッバース(PA)大統領・安倍首相・会談
- 7・9 トルコ・エルドアン大統領就任(第21代～)



- 10・2 ジャマール・カショギ jmal khashoggi (サウジアラビア人ジャーナリスト)、
サウジ領事館(トルコ)で暗殺(サウジアラビア、ムハンマド皇太子?)
- 12・16 ハマース創設31周年集会(ガザ市)イザディン・アルカッサム/イスマイル・ハニヤ
- 12・18～2019年 3・* スーダン、反政府デモ



2019年—Arab Spring 2.0

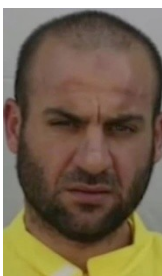
- 2・22 アルジェリア「2月22日運動」、反軍事政府デモ拡大(4・2 ブーテフリカ大統領辞任)→「アラブの春 2.0」
- 2・21 イスラエル/「青と白」結成 Blue and White (political alliance)/ベニー・ガンツ Benny Gantz
- 2・23 スーダンバシル大統領「非常事態宣言」
- 2～3・ イスラム国都市バグズ陥落(シリア東部)/イスラム国支配地域消滅
- 3・23 シリア民主軍 Syrian Democratic Force (SDF)、「イスラーム国」解体宣言
- 3・31 第30回アラブ連盟首脳会議(チュニス)



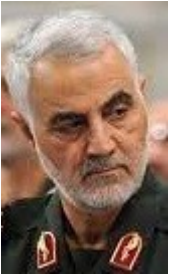
- 4・13 パレスチナ自治政府(PA)/モハマド・シュタイエ首相 Mohammad Shtayyeh (ファタハ)
- 4・11 スーダンクーデター、バシル大統領拘束・軍事暫定政権
- 8・17 スーダン、軍部・文民共同統治
- 10・17 レバノン、反政府デモ拡大
- 10・5 イラク、反政府デモ拡大
- 10・26 米軍、イスラーム国バクダーディー Abu Bakr al-Baghdadi 自爆死亡



- 10・31 イスラーム国、後継者アブイブラヒム・ハシミ Abu Ibrahim al-Hashimi al-Qurash 選任
- 11・* 新型コロナウイルス感染症の発生(中国武漢市)—以降全世界に拡大
- 12・7 PFLP 創立 52 周年記念集会(ガザ)



2020年



1・2 米国、イラン革命防衛隊コッズ部隊ソレイマニ Qasem Soleimani 司令官爆殺

1・28 米国トランプ/イスラエル・ネタニヤフ「和平提案」

1・29 国際開発機関協会 (Association of International Development Agencies AIDA) 声明「ノー・ディール: AIDA は国際社会に米国の和平案を拒否し、説明責任を要求する」

5・17 イスラエル/ベンヤニン・ネタニヤフ(リクード)・ベニー・ガンツ(Benny Gantz/青と白)

連立政権

5・20 AIDA 声明「イスラエルによるヨルダン川西岸地区併合を阻止する行動を取るよう国際社会に求める」

8・4 ベイルート(レバノン)大爆発



8・13 「アブラハム合意」イスラエル・アラブ首長国連邦(UAE)国交正常化 (9・11 バーレーン、10・23 スーダン、12・10 モロッコ国交正常化)

8・13 パレスチナ自治政府アッバース大統領「正常化はパレスチナへの「裏切りだ」と断定した」

9・1 ハマース・イスラエル6ヵ月停戦合意

10・20 38th World Zionist Congress

10・23 第2次リビア内戦/暫定政府/トリポリ政府とリビア国民軍「停戦合意」

11・3 米国大統領選挙—ジョー・バイデン(Joe Biden/民主党)選出

11・10 サエブ・アリカット(Saeb Erekat) PLO事務局長—新型コロナウイルスで死去(享年65歳)

11・12 PFLP 創立53周年声明

11・27 イラン科学者モッセン・ファフリザデ(イラン核兵器の父)暗殺(イスラエル・モサド)

12・23 アブデル・ラヒム・マロウ Abdul-Rahim Mallouh PLFP 政治局員死去(享年69歳)

12・23 イスラエル、クネセト(国会)解散

2021年

1・4 サウジアラビア・UAE・バーレーン・エジプト4ヵ国、カタール経済封完全解除

1・6 アメリカ合衆国議会議事堂襲撃事件(トランプ派)

1・15 マフムード・アッバース PA 大統領、立法評議会(PLC)選挙 5月22日、

自治政府(PA)大統領選挙 7月31日、民族評議会(PNC)選挙 8月31日実施表明

1・15 ハマース、総選挙を歓迎する。

1・16 PFLP 声明「民族対話の前に選挙令が発令されても、分裂を終わらせる保証はありません」

1・17 EU、パレスチナ総選挙を歓迎

1・19 パレスチナ民族イニシアチブ(PNI)、立候補年齢を21歳に引き下げることを要求

2・9~10 パレスチナ民族対話 Palestinian National Dialogue(カイロ)

15党派参加、立法評議会、大統領、民族評議会選挙実施を尊重、イスラーム聖戦機構、総選挙不参加表明 (2・10 ミャンマー、国軍クーデター)



3・16 第2回民族対話(カイロ)—second round of Palestinian National Dialogue 「名誉憲章」

3・23 イスラエル総選挙—リクード 30(-6)/イエシュ・アティド 17(前回青と白)/シヤス 9(+0)/青と白 8(-25)/

ヤミーナ 7(-1)/労働党 7(+0 前回労働党+ゲシェル・メレツ連合)/イスラエル・ベティヌ 7(+0)/トーラ・ユダヤ連合 7(+0)/新しい希望 6/合同リスト 6(-9)/

宗教シオニズム 6(前回ヤミーナ)/メレツ 6(前回労働党+ゲシェル・メレツ連合)/ラアム 4(前合同リスト)

3・31 パレスチナ解放人民戦線(PFLP)、パレスチナ解放民主戦線(DFLP)、人民党、

パレスチナ・ナショナル・イニシアチブ、別々のリストで選挙に臨むことを決定しました。



4・30 アッバース大統領、5月~8月の立法評議会(PLC)、自治政府(PA)、民族評議会(PNC)選挙の延期大統領令(ファタハ派の内部対立/アッバース派VSマルワーン・バルゲーティー(イスラエルの刑務所で服役中))

3・31 ミャンマー連邦議会代表委員会(CRPH)

「連邦民主主義憲章」発表

- 4・11 オースティン米国防長官、イスラエル訪問(イラン核合意問題協議)
- 4・11 イラン、ナタンズ核施設破壊工作(イスラエル・モサド)
- 5・7 パレスチナ民衆とイスラエル警察衝突(エルサレム/アルアクサー・モスク)
- 5・10 ハマース(ガザ)、イスラエルに 150 発ロケット弾発射
- 5・10 イスラエル、報復ガザ空爆開始
- 5・18 イスラエル、ハマース(ガザ)停戦合意



6・13 イスラエル、ナフタリ・ベネット Naftali Bennett 首相連立政権成立(歴代 12 年ネタニヤフ退陣)



6・18 イラン大統領選挙—エブラーヒーム・ライースイー Ebrahim Raisi 師当選 (7・1 中国共産党創建100周年式典)

7・7 Ahmed Jibril (PFLP—GC) 死去(享年 83 歳)

7・25 チュニジア、カイス・サイード大統領、ヒシム・ムシーシ首相解任と国民代表議会(以下、議会)の 30 日間の活動停止/ラシエド・ガンヌーシ議長(アンナハダ党首)、2011 年革命へのクーデター批判



8・15 アフガニスタン、カブール陥落・米軍撤退—タリバン政権樹立

9・6 エルサレム作戦/イスラエルギルボア刑務所から6人脱獄(「アル・アクサ殉教者旅団」(AAMB)ザカリア・ズベイディ元司令官、イスラム聖戦のメンバー5 人)。

9・13 ベネット・イスラエル首相・シーシ・エジプト大統領会談(10年ぶり)

9・22 チュニジア・カイス・サイード大統領、緊急事態における新たな特別措置発表

10・10 イラク総選挙(シーア派サドル師の政党「サーイルーン」第1党)/政権混迷

10・11 チュニジア、ナジュラ・ブーデン=ラマダーン首相、新内閣発表

10・14 レバノンで銃撃戦(イスラム教シーア派とキリスト教系の民兵)

10・22 イスラエルガantz国防相、NGO6団体を「テロ組織」指定

11・19 イギリス政府、ハマースを「テロ組織」認定

11・21 PFLP・ハマースリーダーシップ会議(ガザ)

11・23 アッバス(PA)大統領・プーチンロシア大統領会談(ソチ)

11・24 オーストラリア政府、ヒズボラを「テロ組織」認定

12・13 PFLP 創立54 周年

2022 年

現在・中東各国の新型コロナウイルス COVIA-19 感染状況 2022 年7月 15 日現在/ロイター

	感染者	死者
イラク/	2.396.707 人	25.261 人
カタール/	391.945 人	680 人
バーレーン/	641.534 人	1.503 人
サウジアラビア/	801.935 人	9.228 人
ヨルダン/	1.702.661 人	14.069 人
レバノン/	1.122.146 人	10.475 人
シリア/	55.960 人	3.150 人
クウェート/	648.216 人	2.556 人
イエメン/	11.832 人	2.149 人
イラン/	7.265.251 人	141.464 人
アフガニスタン/	183.285 人	7.728 人
パレスチナ/	662.538 人	5.662 人
イスラエル/	4.489.396 人	11.101 人



(2・24 ロシア軍、ウクライナ侵攻—ウクライナ戦争開始)

3・10 イスラム国 (IS) 2 代目カリフ・アブイブラヒム・ハシミ死亡/3代目アブハッサン・ハシミ

4・15 エルサレム・ラマダン(断食月)/パレスチナ人とイスラエル警察衝突



5・11「アルジャジーラ」パレスチナ人記者シリン・アブアクレ
Shireen Abu Akleh 銃撃死亡事件



5・30 リッダ闘争(1972 年)50 周年/岡本公三墓参(レバノン・ベイルート)/
50 周年記念集会(東京)

7・16~15 バイデン米国大統領、イスラエル、パレスチナ、
サウジアラビア訪問

7・15 バイデン米国大統領—アッバスパレスチナ自治政府(PA)大統領会談

8・5 イスラエル、ガザ空爆(イスラム聖戦 (PIJ))

8・7 イスラエル・パレスチナ武装勢力/イスラム聖戦 (PIJ) 「停戦合意」

8・17 イスラエル・トルコ外交関係の完全正常化

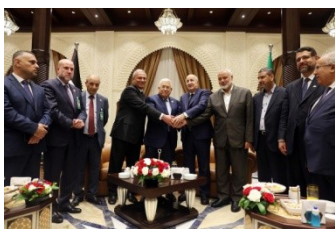


9・16 イランのナフサ・アミニ(22)死亡事件—反政府抗議デモ全国化

(9 月 13 日、イラン北西部に住むクルド系イラン人の 22 歳の女性が、家族とテヘランを訪問中に「ヒジャブ(女性が髪を覆う布)をきちんと着用していない」としてイスラム風紀警察に拘束され、同日意識不明となり、16 日に死亡した。

抗議デモは、ヒジャブ着用義務に反対する女性たちのデモから始まり、ヒジャブを適切に着用していなかっただけで若い女性が死ななければならなかった現在の体制を批判するデモへと発展した。

経済苦境も背景に抗議デモは激化し、デモを弾圧する治安部隊との衝突で、公式発表では既に 41 人が死亡、1,400 人以上が逮捕されているとのこと)



10・13「パレスチナ和解合意」(アルジェリア)

the 2022 Palestinian reconciliation agreement/
the Algerian document for Palestinian reconciliation



10・* 武装グループ「アリーン・アルアスワド(Aren Al-Aswad(ライオンの巣/
2021 年結成)西岸ジェニン、ナブルスに拡大

(10・16~22 中国共産党第 20 回大会)

10・27 イラク、スーダーニー新政権発足



11・1 イスラエル総選挙/「リクード」(ネタニヤフ)第1党

- 11・8 アメリカ中間選挙開票(上院/民主 20 共和 49 下院/民主 211 共和 218～下院共和多数派、ねじれ議会)
- 11・10 パレスチナ独立宣言記念集会
- 11・13 イラン反政府抗議デモの死者 326 人(人権団体「イラン・ヒューマン・ライツ」(IHR)発表)
- 11・15～20 第 27 回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP27)/エジプト
- 11・18 イスラエル・ネタニヤフとトルコ・エルドアン電話会談/リクード声明「トルコ・イスラエル関係で新時代を構築するため協力することで一致した」
- 11・30 イスラム国(IS)3代目カリフ・アブハッサン・ハシミ死亡/4代目/アブ・フセイン・フセイン
- 12・8 ファタハスポークスマン、ムンサール・ハイエク「内部分裂に終止符を打ち、ベンヤミン・ネタニヤフの次期テロリスト政権に立ち向かうために必要な準備をする」



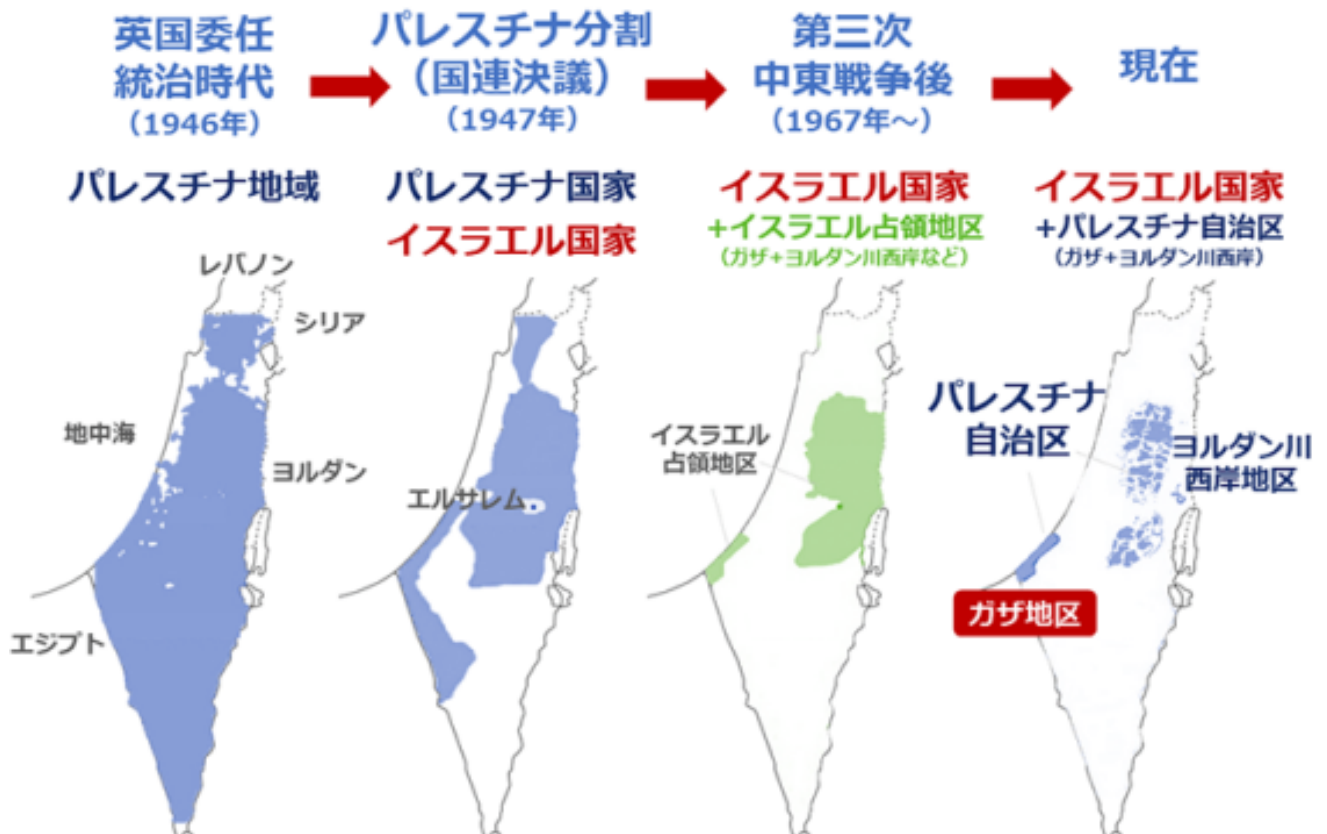
12・11PFLP 創立 55 周年パレード(ガザ)/ジャミル・メザーJAMIL MAZHAR 副事務総長は「ハイファ、アル・ナカブ、アル・ナシラー、ウンム・アル・ファーム、アル・ジャリル、そしてトリアングルで、国家的アイデンティティに固執している人々の名において、解決策も、和解も、占領者との交渉もない」

12・14 ハマース結成 35 周年金衆会(ガザ)



12・29 イスラエルクセネド/第 6 次ネタニヤフ内閣発足/リクード・ユダヤ・トーラ連合・シャス・宗教シオニスト党、ユダヤのカ・ノアム＝連立内閣

12・31 ファタハ結成 58 周年記念集会(ガザ)/ガザ地区首長アフメド・ヘレス、イスラエル史上最も右翼的な政権の木曜日の宣誓に続いて、対立する派閥間の和解を呼びかけた。「国民和解を成し遂げる時が来た」



2023年

(2・6トルコ・シリア大地震発生)

2・26 パレスチナ自治政府(PA)・イスラエル共同声明

「双方(パレスチナとイスラエル)は、これまでの全ての合意を守り、公正で永続的な和平に向けて努力すること確認した」「双方は対立の緩和と、これ以上の暴力の防止に努めることの必要性を再確認した」



4・5 イスラエル警察、アクサー・モスク(エルサレム)に突入/パレスチナ人 350 人逮捕

4・5 ガザ地区からロケット弾発射、イスラエル軍空爆

4・6 レバノン南部からロケット弾 30 発以上発射

4・9 シリア領ゴラン高原イスラエル占領地にロケット弾6発発射/エルサレム旅団声明

(4・15 スーダン/スーダン軍(SAF)と準軍事組織即応支援部隊

(RSF)内戦勃発)

4・30 イスラム国(IS)4代目カリフ・アブ・フセイン・フセイン死亡

5・12 ファタハ/ムハンマド・アブ・バクル(通称アル・サンクス)追悼集会(ナブルス)

マフムード・アル・アルール副議長「他のパレスチナ武装勢力との連帯を表明しガザ、ナブルス、ガリラエルサレム、そして「ディアスポラ」のパレスチナ人の血は同じだ」「われわれは(占領軍に)われわれの誰一人として孤立させる機会を与えてはならない

5・27 リツダ闘争(1972年)51周年集会(東京)重信房子「パレスチナの現状と私たちの課題」



8・3 イスラム国(IS)5代目アブー・ハフス・ハーシミー・クラシー
Abu Hafs al-Hashimi al-Qurashi



6・14 パレスチナ自治政府(PA)アッバース議長・中国習近平主席
会談(北京)

9・13 イスラエル、パレスチナ人5人殺害

9・20 サウジアラビア・ムハマド皇太子、米国メディア Fox News インタビュー「イスラエルとの国交正常化合

意に日々近づいている」

9・29 イスラエル・ハマース、ガザ地区検問所の再開(カタル、エジプト、
国連の仲介)



10・7 ハマース「イゼディーン・アル・カッサム旅団」—アル・アクサの氾濫
作戦—イスラエルへのロケット弾攻撃

—水上艇のジキムの闘い/歩兵、グレムシャローム、エレス検問所の突
破攻撃、ピックアップトラックによる7つの検問所への突破攻撃/パレス
チナ側で 1100 死亡・イスラエル側で 300 人以上死亡
イスラエル宣戦布告「鉄の剣作戦」



ハマース/イスラーム聖戦/パレスチナ解放人民戦線/
パレスチナ解放民主戦線/アル・アクサ殉教旅団



10・7PFLP Statement on Al Aqsa Flood Battle

10・8 ハマース声明「100人以上のイスラエル人をガザ地区で人質にしている」/レバノンのヒズボラ、イスラエル北部へロケット攻撃/ G7 外相会合、共同声明「ハマースなどのテロ攻撃を断固として非難し、人質の即時解放を求めるとした上でガザ地区の人道危機に対処するため、戦闘の人的休止や人道回廊の設置を支持する」

(10・8 イラン・イブラーヒーム・ラーシー大統領「イスラム諸国の政府は、イスラム共同体とともに、パレスチナ人民の支援に参入しなければならない。敵であるシオニスト(イスラエル)は方程式が変わったことを理解すべきだ」と述べた。また「イランはシオニスト政権に対するパレスチナの正当な防衛を支持する」)

10・9 アメリカ・ドイツ・フランス・イタリア「五か国共同声明」/イスラエル支持、テロ行為批判

(10・11 ヒズボラ(ヨルダン)イスラエルにミサイル発射/イスラエル、レバノン南部砲撃)

10・11 イスラエル、戦時内閣(国家統一の参画)設立、「我が国の 9. 11」と発表、

10・12 アッバース大統領(PA) 声明「パレスチナの人々に対する広範な攻撃の即時停止」
/アブドゥラー2 世国王(ヨルダン)会談



10・15 イラン外相アブドラヒアン、ハマース・ハーニヤ会談(ドーハ)

イラン外相声明「イスラエルの戦争犯罪からガザ地区の人々を守るため、われわれは努力を続ける」

アッバースパレスチナ自治政府大統領声明「はパレスチナ人の代表ではない」、「ハマースは人質の即時解放をすべき」、「ハマースによるイスラエル南部への攻撃を非難する」/
イスラエル軍、シファ病院(ガザ)突入

10・16 アッバース大統領(PA)・バイデン大統領(米)電話会談/

アッバース大統領「ハマースによるイスラエル領土襲撃の報復として、パレスチナ人をガザから追放する行為を完全に否定」



10・17 アリ・アハリ病院爆破事件(ガザ市)

(11・3 レバノン/ヒズボラ・ナスララ師

「対イスラエルの戦闘拡大について、あらゆる可能性の準備をしている」)

10・28 イスラエル軍、ガザ地区に地上部隊侵攻

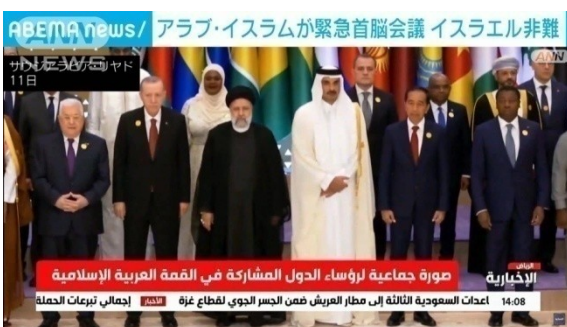
11・5PFLP11月5日付声明/敵がアル・マガジで新たな虐殺を犯し、絶滅戦争が続いていることは、破産、無能力、混乱の証拠である。

* アル・アクサ殉教者旅団/ハリール・アル・ラフマーン旅団「ヨルダン川西岸地区は手をこまねているわけではない。我が旅団は、あらゆる場所や路地で、国中を燃え上がらせる。自爆攻撃は旅団のテーブルの上にあります。」

11・6DFLP 代表ハレド・ハリファ「すべてのパレスチナの分派は、シオニストの敵とのあらゆる対立に参加した」

11・9 ハマース・ハニヤ、エジプト情報局カメラ長官会談(カイロ)

11・10 イスラエル軍、レバノン南部砲撃/メイズ・アルジャバル政府病院破壊



11・11 イスラム協力機構・アラブ連盟臨時合同首脳会議

(リヤド) 共同声明「パレスチナ自治区ガザにおける軍事作戦の即時終結を求めるとともに、イスラエルがパレスチナ人に対する行動を自衛として正当化する主張を拒否すると表明した。」

11・15 国連安保理事会決議

「戦闘の一時休止」「人質の即時解放」

(11・16 ヒズボラ(レバノン)イスラエル 8 か所にミサイル攻撃)

11・19 PFLP 声明「わが人民は、パレスチナの大義の強制退去と清算の計画を阻止するでしょう」

11・22 ハマス・イスラエル「4日間停戦」合意

11・24 ハマス人質解放第1弾 24 人/イスラエル 39 人解放

11・25 ハマス声明

「第2陣の人質の解放はイスラエル側が支援物資をガザ地区北部に送る合意を順守するまで遅らせる」

11・25 ハマス人質解放第2弾 17 人/イスラエル 39 人解放

11・26 ハマス人質解放第3弾 17 人/イスラエル 39 人解放

11・27 ハマス人質解放第4弾 11 人/イスラエル 33 人解放/ハマース・イスラエル停戦合意2日延長

11・28 ハマス人質解放第5弾 13 人/イスラエル 30 人解放

11・29 ハマス人質解放第6弾 16 人/イスラエル 30 人解放

11・29「イスラエル及びガザ情勢に関する G7 外相声明」



11・29 パレスチナ人民連帯国際デー(1947 年国連総会決議 181 号/パレスチナ分割決議/イスラエル・パレスチナ二国

11・30 ハマス・イスラエル「停戦」1日延長合意

11・30 エルサレムでハマース、イスラエル兵間の銃撃/ハマース「銃撃」声明

12・1 イスラエルガザ地区空爆戦闘再開/レバノン南部砲撃(ヒズボラ3人死亡)

* PFLP 声明「裏切り者の敵は再び失敗し、失望と敗北の尻尾を

引きずって敗北して帰ってくるだろう」

12・2 パレスチナ自治区ガザ地区保健省「110・7 以降、パレスチナ人 15207 人死亡」

12・3 イスラエルテルアビブ/「人質解放優先」を訴えるデモ

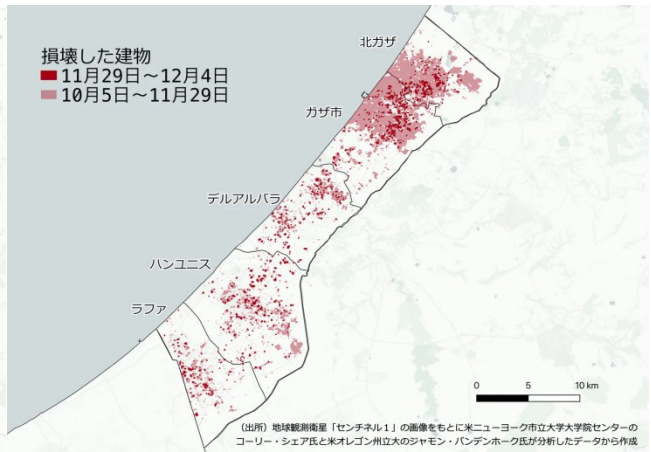
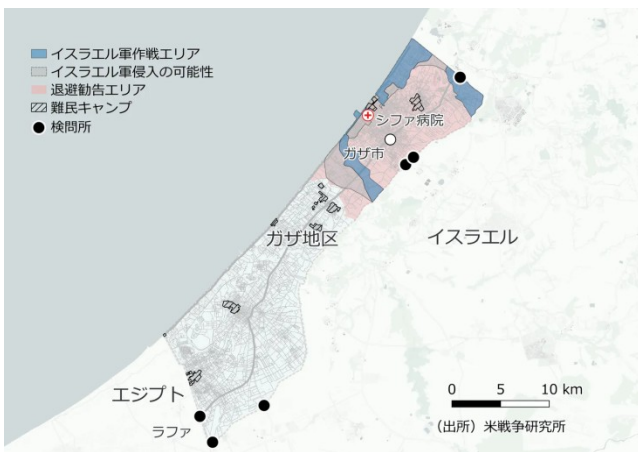
12・3 イスラエルネタニヤフ首相「地上侵攻なしに目標を達成することは不可能だ」



(12・3 フーシ派 Houthi movement (イスラムシーア派分派ザイド派イエメン武装組織)「イスラエル船」2隻へミサイル、無人機攻撃)

(12・3 フィリピンミンダナオ島マラウイ大学爆弾事件/「イスラム国」IS 声明)

(12・6 フーシ派、イスラエル南部に弾道ミサイル発射)



イスラエル軍の戦況 (12月7日時点) 破壊した建物 (12月4日時点の衛星画像の分析)

12・8 国連安保理事会「停戦決議」否決(フランス、日本等 13 か国賛成、イギリス棄権、アメリカ拒否権行使)

12・9 PFLP 声明「米国は蛇の頭」

「ガザ地区の即時停戦を求める国連安保決議に対して、米国が拒否権を繰り返し行使することは予想されていた。この主要な



植民地は、アメリカ先住民に対する浄化、虐殺、大量虐殺の犯罪で満たされた歴史を持ち、実際に、そして容赦なく、ガザのわが国民に対する大量虐殺戦争を主導しています。

この拒否権は、占領軍がパレスチナ人のあらゆるものに対する侵略、虐殺、大量虐殺と破壊を継続するためのさらなる青信号を与え、米国が蛇の頭であり、世界で最も邪悪で犯罪的であることを再び明らかにする。

この拒否権は、人民の立場と矛盾する。アメリカ合州国の世論は、全世界と、占領下のパレスチナで、アメリカ合州国の歴代政権と完全に協力して犯されたシオニストの犯罪について、より多くを理解し始めているアメリカの世代に、その醜い犯罪の顔を再び暴露している。

あらゆる場所の米軍基地と権益を攻撃し、占領軍をこの地域から追放することは、わが人民、抵抗運動、そして世界のすべての自由な人民にとっての第一の目標であり続けなければならない。

12・12 イスラエル軍、ガザの地下トンネルへ海水注入開始

12・29 南アフリカ、国際司法裁判所(ICJ)に、集団殺害罪の防止および処罰に関する条約(ジェノサイド条約)違反提訴

2024年

1・2 イスラエル軍、レバノン首都ベイルートにドローン空爆(ヒズボラ拠点)



1・3 ヒズボラ・ナスラス師「「これまで、我々は前線で慎重に動いてきた」としつつも、「もしイスラエルがレバノンに戦争を仕掛ければ、我々の対応は無制限のものになる。我々は戦争を恐れていない」と表明した。

1・3 イラン精鋭部隊・革命防衛隊ソレイマニ司令官追悼行事爆破事件(イラン保健相 95人死亡、211人負傷)



1・4 イスラム国(IS)声明「2人の殉教者がケルマンに向かい、群衆の中で装着した爆弾を起爆させ、集まっていた「背教者」を死傷させた」